

アーカイブズ保存のための物理的コントロールに関する現状

青 木 睦・西村 慎太郎

【要 旨】

アーカイブズ保存のための物理的コントロールの目的は、アーカイブズの物理的原形をでき得る限り維持し、永続的に歴史的文化的資源として広く利用可能なよう、適切な保存・公開のシステムを構築することにある。アーカイブズのさまざまな保存の課題に取り組む場合、建物と保存環境管理、史料群のロケーション、史料群ごとの保存状態の現状、そして個々の史料の劣化状態・修復状況・記録媒体（記録素材・記録定着媒体・記録形状）調査・利用状況、という順序をたどる。まず、アーカイブズの物理的階層を示し、その階層を基幹として、その段階ごとに保存情報が資源化されていく過程について紹介し、物理的管理に必要な情報は何であるのか、それはどのように生成し、集約化していくのか、さらにどのように公開していくことが望ましいかを述べる。アーカイブズの物理的階層を5段階に設定し、その段階に沿って国文学研究資料館収蔵アーカイブズの具体的事例を紹介しつつ、実施方法を呈示する。

まず、第1章「はじめに」において本稿を概観し、第2章「研究の課題」で、アーカイブズ保存のための物理的コントロールに関する課題を整理した。特に、物理的階層を基幹とした保存管理研究の必要性と、保存情報を資源として活用できるようにする電子化システムの環境整備をあげた。第3章「アーカイブズ保存のための物理的コントロールの流れ」では、物理的階層の1から4段階について、建築・環境管理、史料群の配架と配列、史料群の状態までを具体的事例で紹介する。第4章「史料単位の保存状態」では、物理的コントロールの最終段階である史料劣化調査・修復記録・紙質調査についてその実態を明らかにする。

【目 次】

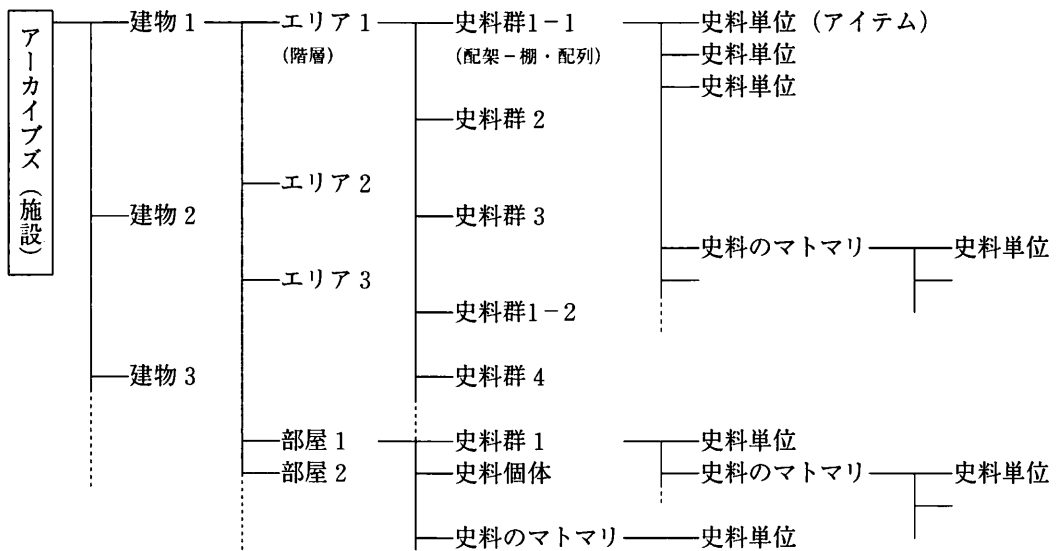
- I. はじめに
- II. 研究の課題
- III. アーカイブズ保存のための物理的コントロールの流れ
 - III-1. 建物・保存環境管理
 - III-2. 史料群の配架と配列
 - III-3. 史料群の保存状態の把握
- IV. 史料単位の保存状態
 - IV-1. 史料の劣化状態調査
 - IV-2. 史料修復記録
 - IV-3. 史料紙質調査
 - IV-4. 史料利用調査
- V. おわりに

I. はじめに

アーカイブズ保存のための物理的コントロールの目的は、アーカイブズの物理的原形をできる限り維持し、永続的に歴史的文化的資源として広く利用可能なよう、適切な保存・公開のシステムを構築することにある。アーカイブズ保存の基本的な方針として、個々の史料からではなく、史料群としてのあり方を重視して、これを物理的コントロールの対象とする。したがって、アーカイブズのさまざまな保存の課題に取り組む場合、建物と保存環境管理、史料群のロケーション、史料群ごとの保存状態の現状、そして個々の史料の劣化状態・修復状況・記録媒体（記録素材・記録定着媒体・記録形状）調査・利用状況、という順序をたどる。成立年代や記録媒体も異なる様々な個性を持つ史料が混在する史料群をどのように保存・公開していくかについては、史料群から個への順序を以て保存計画を立て、それを達成することが重要なテーマである。

まず、アーカイブズの物理的階層を下記にまとめた¹⁾。ここで対象とするアーカイブズは、収蔵量50万点以上、収蔵棚延長3,000メートル以上であるが、史料群から個々の史料へと適用する保存管理の基本的な方法論については、他のどのような文書館などの史料保存施設であっても有効と考える。

アーカイブズの物理的階層



本稿では、当館所蔵アーカイブズ保存のための物理的コントロールの現状を事例に、アーカイブズの物理的階層を基幹として、その段階ごとに保存情報が資源化されていく過程について紹介し、物理的管理に必要な情報は何か、それはどのように生成し、集約化していくのか、さらにどのように公開していくことが望ましいかを述べてみたい。

アーカイブズの物理的階層は、5段階に設定でき、その物理的コントロールは、設定された階層に沿って段階的に行っていく方法が望ましい。この方法論は、一つ一つの史料の劣化状態調査からとりかかるとはならず、第1段階から第5段階へと史料の保存状況の分析を深めていく点で現実的に採用しやすいという長所がある。また、段階的に分析深度を高めていくことは、史料群の物理的情報を正確に把握した記録を情報資源化し、利用者に提供することを可能とする。また、史料群の保存されている空間である施設、建物、エリア（階層と床面・区画）、史料群単位、史料一点単位での現状を段階的におさえている点に特徴がある。以下、概略を説明しておきたい。

第1段階は施設の立地的、施設的環境を示し、立地や周辺環境条件、あるいは建物の構造や配置という基本的情報である。第2段階は、施設内の建物および施設外にある史料保存施設で、その設備条件、保存の物理的環境条件である（第1・2段階は本稿のⅢ-1.建物・保存環境管理を参照）。

第3段階は、建物内のどの階のどのエリアにあるのか、エリア内のロケーション（棚配置・位置）を示す情報である。第2段階と同様、フロアごとの設備条件、保存の物理的環境条件の管理情報をとる。史料整理作業時は、収蔵庫以外に史料が一時保管されるので、この移動先の条件についても確認する必要がある。ここでの情報には、各エリアごとの環境モニタリング報告等が含まれる（本稿のⅢ-2.史料群の配架と配列を参照）。

第4段階の史料群ごとの現状における情報は、配架位置、物理的数量・棚延長、配架・棚中での配置方法、保存容器などへの収納状況、史料群の中の代替化（複製化）の状況、史料整理状況などの概括的内容である。史料整理情報から抽出した史料群の上限と下限の年代を示すことにより、時代による記録媒体の傾向をみることができる。また、配列順は、収蔵場所を固定して割り当てる固定配架法では分散的なスペースの確保が必要なため不向きである。アーカイブズの史料群ごとの配架は、順々に詰めて配列する連続配架法が適応される。よって、史料群単位・収集引継の組織単位ごとの配架がとれないため、配架場所の検索事項が重要になる（本稿のⅢ-2.史料群の配架と配列、Ⅲ-3.史料群の保存状態の把握を参照）。この第4段階までの収蔵史料群ごとの物理的コントロール情報を集約・分析した結果に基づき、今後の保存計画・対策と長期的な保存・公開システムを構築していくことになる。

最終の5段階は、第4段階の史料群ごとの現状を把握した上で取り組むこととなる。史料一点単位、史料のマトマリ²⁾での調査内容は、個々の史料の状態を把握する劣化状態調査、修復記録、記録媒体（記録素材・記録着媒体・記録形状）調査、利用状況である（本稿のⅣ.史料単位の保存状態を参照）。

各段階における物理的階層ごとのアーカイブズ保存情報の具体的内容については、3章以降で述べることとする。

本稿は、西村慎太郎がRA（リサーチ・アシスタント）として2001年4月から2004年3月の間に行った史料の物理的保存状態に関する様々な情報の整理分析研究の成果の一部である。西村は、図表の基礎データとなる収蔵史料群403件（総約50万点）と寄託史料群19件（8890点）を対象に、史料群ごとの保存状態・保存措置状況、史料単位の劣化状態調査・修復状況等を調査し、物理的な保存情報を集約したデータベースを作成し、各調査報告をまとめた。全体調整および執筆は、青木が行った。

II. 研究の課涯

アーカイブズ保存のための物理的コントロールとは、従来の「保存管理」という用語と意味するところは同じである。しかし、記録史料学、史料管理学の理論と実践の発展の中で、「保存管理」の概念は拡大している。例えば、安藤正人氏は、記録史料保存管理プログラムのモデルにおいて³⁾、所在調査、保存管理、整理利用という三段階に分けて述べ、広義の保存管理と狭義の物理的な保存管理という概念を用いている。本稿では、アーカイブズをモノとして物理的に保存管理するということを強調するため、あえて「物理的コントロール」⁴⁾という用語を選んだ。

今日のアーカイブズ保存のための物理的コントロールに関する課題について、次の3つの点を挙げておきたい。

第1は、アーカイブズ学（記録史料学）の設定している研究領域における物理的コントロールとは、具体的にいかなるものであるのかということを示すことが求められている点である。アーカイブズ学の

構造について⁵⁾、安藤正人氏は、「アーカイブズ資源研究」「アーカイブズ管理研究」を柱にし、保存に関する研究領域を「アーカイブズ管理研究」に保存修復学として位置づけている。また、青山英幸氏は、記録史料学の構成内容を「文書館管理論」「アーカイバル・コントロール論」「記録史料認識論」とし、「アーカイバル・コントロール論」に記録媒体そのものの保存問題を研究対象とする「資料コントロール」領域、その内容を保存論・記録媒体論・保存修復論と設定している。しかしながら、両氏ともその具体的な姿は示していない。それは、これまでの保存研究の蓄積を理論化することが不足しているという研究現状にあるからだと考えられる。この点については、事例を積み重ねて体系化し理論化することが求められる。本稿は、アーカイブズ保存のための物理的コントロールの方法を呈示し、その布石となることを試みた。

第2の点は、アーカイブズの物理的階層を基幹とした保存管理研究が必要であるということである。

アーカイブズの保存計画の範囲は、史料群全体の「保存環境・条件の整備」、史料を維持保存していくための保存容器への収納などの「予防的保存措置」、急速に劣化が進行している史料のマイクロ化や複製による「代替化」、そしてすでに劣化損傷した史料の「修復」、保存を考えた「利用」のあり方までが含まれる(具体的に内容については、山田哲好・青木(廣瀬)睦「史料館における史料保存活動」(『史料館紀要』第22号、1991年参照、以下「史料館保存活動」と略す)。史料保存問題の解決を図るため、一つ一つ個別に対策を考えるのではなく、つとめて総合的観点で相互の関連をとらえ、保存の課題全体を見据えた保存計画をたて、実行することを目指すものである。

こうした保存計画立案にあたり、劣化状態調査をふまえた論考が多く出されている⁶⁾。その中で、国立公文書館所蔵公文書等保存状況調査にあたった金山正子氏は、保存管理における保存計画の進め方について、まず資料の素材と劣化状態を把握し、保存環境整備、劣化原因の究明と対策、そして保存・利用のバランスを考えた長期保存のシステム構築していく必要性を述べ、具体的な史料保存状態調査手法の事例を紹介している。そのなかで保存状態の調査は、保存計画立案のためと位置づけている。しかしながら、保存計画の範囲および計画の立案にあたっての優先順位の選定にあたり、アーカイブズの物理的階層を基幹とすることの重要性について、これまでほとんど触れられてこなかった。

第3は、アーカイブズの保存情報を資源として活用できるようにする電子化システムの環境整備が求められている点である。文書館における電算システムは、史料整理支援システムについての論考があり⁷⁾、情報資源の徹底的な再利用による史料情報の情報資源化を進めている。また、日本における国際的な記録史料記述標準化は、「国際標準：記録史料記述の一般原則：ISAD(G)」を軸として進められ、国際規格の電子化言語方式による記録史料記述フォーマット「コード化記録史料記述：EAD」の適用も試みられている。この記述要素には「記述単位の規模(数、量または大きさ)」「物理的な特徴」「複製の存在」の物理的な保存管理情報が含まれる。この国際標準を意識した『史料館収蔵史料総覧』(国文学研究資料館史料館編、名著出版刊、1996年、以下『総覧』と略す)にも、「数量」「形態」「史料の状態」として史料群の保存管理情報の項目が設定されている。今後、設定された項目に対し、簡潔な保存管理情報をどのような内容で記述するかを検討することが求められている。

以上のような課題について、ここで全課題のすべてについて論ずることはできないが、諸課題の一部分について事例を示し、理論化に向けた研究の一端を担いたいと考えている。

最後に、2007(平成19)年以降、国文学研究資料館の東京都立川市への移転にともなう種々の課題が予測される。例えば、移転のために収蔵史料全体の正確な量的把握、史料の保存措置、移送計画、新しい収蔵庫での配架・配列等々をどのようにするか、という点である。本稿の目的の一つには、立川移転に向けた保存管理情報の整備が必須であること、収蔵史料全体の管理とこれを担う組織体制の強化に向けた事前準備としての対応が急務であることがあげられる。

Ⅲ アーカイブズ保存のための物理的コントロールの流れ

アーカイブズ保存空間である施設から史料単位の状態を段階的におさえた物理的コントロールの具体的事例について、この章では建物・保存環境管理、史料群の配架と配列、史料群の保存状態（アーカイブズの物理的階層の第1から第4段階）までをここで述べることにする。

Ⅲ-1 建物・保存環境管理

ここでは、立地・施設の保存環境の問題を検討する。史料の劣化の症例・程度が周囲の環境によって異なるという視点から、立地や周辺環境条件、建物の構造や配置、収蔵史料の施設内の建物および設備条件、保存の物理的環境条件、建物内のエリアとそのロケーション（棚配置・位置）とエリアごとの環境モニタリング報告について取りあげてみたい。つまり、適切な物理的保存環境の整備に向けて現状の欠陥・欠点を見つけて検討することである。諸般の事情により、最善の立地・建造物を得られるとは限らない。当館の場合でも、交通至便だが、住宅密集地域にあって地震・火災に対する危惧などはその一例である⁹⁾。

現在収蔵庫として使用している建物は、文部省史料館時代の1962（昭和37）年5月に新築の北館と、国文学研究資料館東館〔1977（昭和52）年3月より使用開始〕の地下1階である（収蔵施設の現状については、図表3-1、保存環境条件の詳細は、「史料館保存活動」を参照されたい）。北館は、1階を入り口・クローク・閲覧室・撮影室・洗面所と収蔵庫、2・3階を収蔵庫として使用している。東館地下1階に史料・図書類・マイクロフィルムと紙焼などを配している。この地下収蔵庫の四面の内、一面が機械室に一面が湧水池と接している。

北館には空調設備がないため、収蔵庫内に除湿機を設置して相対湿度 $60\% \pm 5$ を目安に職員が調節している。除汚染物質・除塵設備や完全ダクト方式の空調システムはないが、大気汚染物（ NO_2 、 SO_4 ）の検査では1時間平均ppb単位で軽微であるが、階層によって数値差がある⁹⁾。

北館収蔵庫の温度は、3階が平（陸）屋根の影響をうけて夏期の温度が高く、8月の1階と3階の平均温度の差は4度にもおよぶ。各階の湿度はほぼ $60\% \pm 5$ 内である。一日の温湿度変動は小さい。

東館地下は、空調を稼働していないが年間を通じて安定している。但し、池との近接、配管の天井設置（図表3-1）、消火栓配置など危険箇所が多くある。なお、このエリアの湿度傾向は、床面と天井部分での湿度差がある。上から下方向への収蔵棚（図表3-3）の配列方法であるため、同史料群の中での湿度環境の違いがでる。また、棚ブロック（図表3-2）LからP、S、T13-16の一日の湿度変化が少なく、他は大きい（2002年の6箇所の温湿度計測結果）。環境対策に向け、1996から2年間「史料収蔵環境に対する保存箱の効果」¹⁰⁾の研究を実施し、紙製収納箱の湿度変動の緩和効果を実証した。

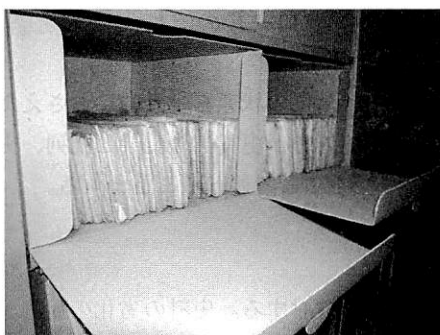
さらに2000年より開始した「記録史料保存のための生物被害対策と総合的害虫管理（Integrated Pest Management, IPM）」¹¹⁾研究を実施し、害虫の生息が確認された地下収蔵庫周辺のモニタリング（図表3-1の東館地下図にモニタリング用トラップ・センサー設置場所を示した）により生息の範囲の確定し、害虫の個体数を減少させた。このIPMの導入にあたり、次の6項目（①被害履歴の集積と整理②日常的予防システム-施設の点検と清掃③史料の日常的点検④史料管理体制の整備⑤組織内外の研修⑥専門家を含む外部との協力体制）の記録作成した。

これらの研究をふまえ、1998年から2001年の短期的保存計画を策定し、収蔵配架の棚上のまとまりごとに中性紙製段ボール収納方法を採用し、ほぼ地下収蔵庫（棚ブロックT）の大半を収納し終えた。

以上、収蔵庫内の異なる環境条件を考え合わせ、その周辺環境に適切に対処した事例を示した。



〔写真1〕



〔写真2〕

〔写真1〕 2003年に特注製造した棚詰め込み式の中性紙製箱
〔写真2〕 中性紙製封筒には収納できていない未措置の史料を、箱の中で安定的に配列した状態

III-2 史料群の配架と配列

アーカイブズの配架と配列が重要であるのは、モノである史料の物理的保存状態を安定させ、かつ利用者への提供を迅速できるよう職員のアクセスを容易にすることである。

そのため、収蔵施設における各フロアの配架現状を正確にとらえることは重要である。配架現状の把握は、史料の管理上必須であり、収蔵庫内の史料を移動した時には訂正して所在を記録して行かなければならない。適正な収蔵量把握と積算のため、不可欠である。また、災害時には、被災史料の特定、救助の優先順位確定、被災現場に近い史料群の保存状態を考えた緊急救助方法と処置の策定に役立つことになる。保存の観点では、前節で述べたように各フロアの環境条件による史料群ごとの置き方や保存措置方法の選定要件となる。

1976(昭和51)年の史料移転時に作成した配架図は、手書きであったため、配架図(作成ソフト・Excel)で新規に作成した。壁際などに置かれた部分は手書きとした。図表3-4.3-5に、東館地下1階と北館1階のロケーションを示した。

配架ごと配列の識別は文書群記号を記入した。配架と配列の関係は、両面棚の使用であるので、各面に配架位置番号のみを記入して、図の中に区切り線を付けて次の文書群とを分けた。北館のすべての書架は、柱部分が鉄骨性で、それに棚板を両面からはめ込む形式の二面使用の固定型(図表3-3)である。

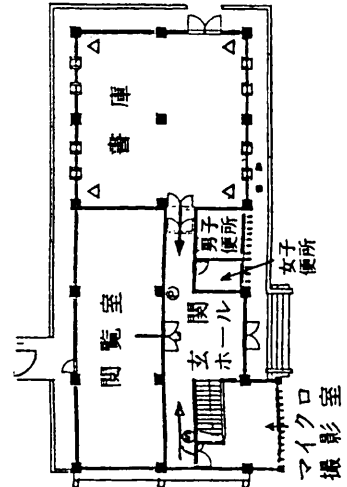
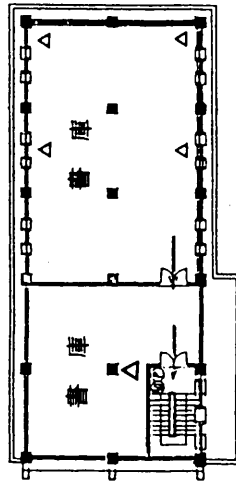
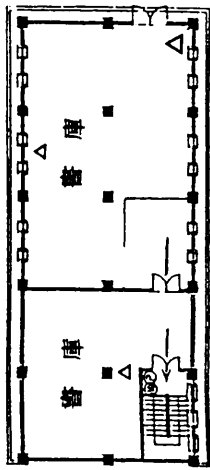
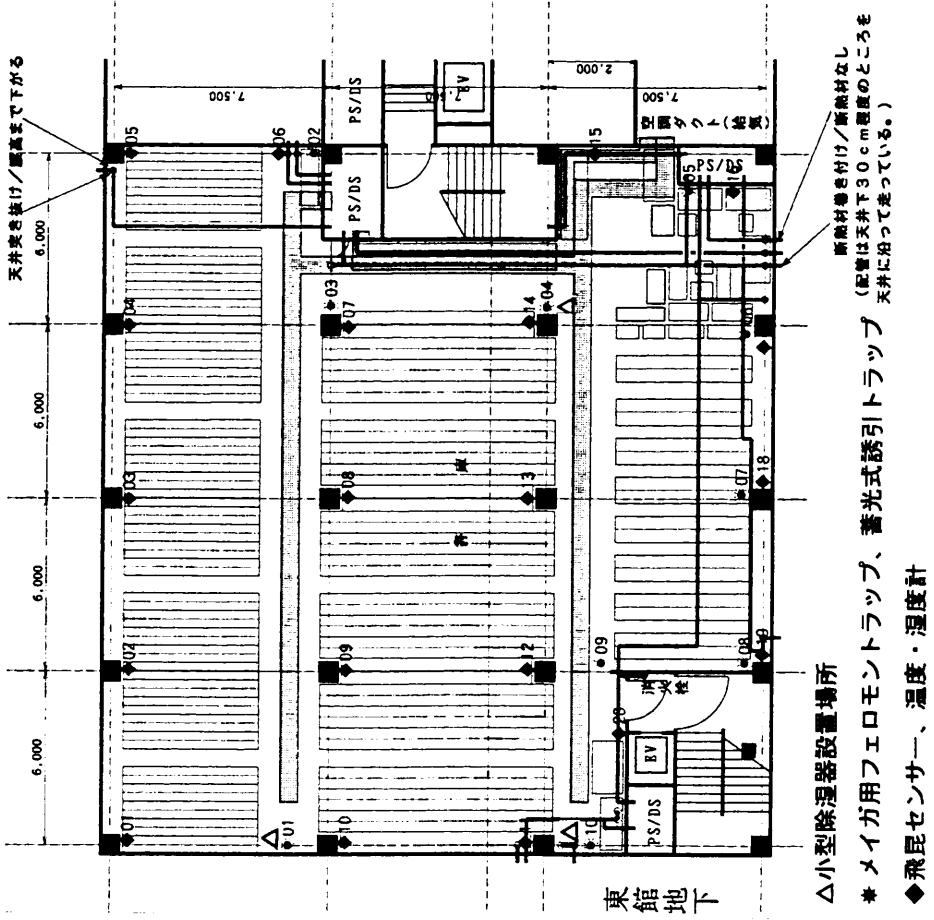
3階に収蔵している日本実業史博物館旧蔵史料の器物史料の配架図も作成した。

収蔵庫壁面に置かれている史料を把握するため、壁面のスケッチと写真撮影を行なった。スケッチは収蔵庫2F前室・2F奥室・3Fを描き、それぞれ入り口より右回りにAからDというように壁に任意の記号を付した。その際、同時に未整理分の配架延長も調査し、史料群保存措置状況一覧に記述した。図表3-6収蔵庫壁面スケッチは、北館2階の事例である。各収蔵庫壁面スケッチ図と写真を合わせたファイルを作成し、現状記録とした。

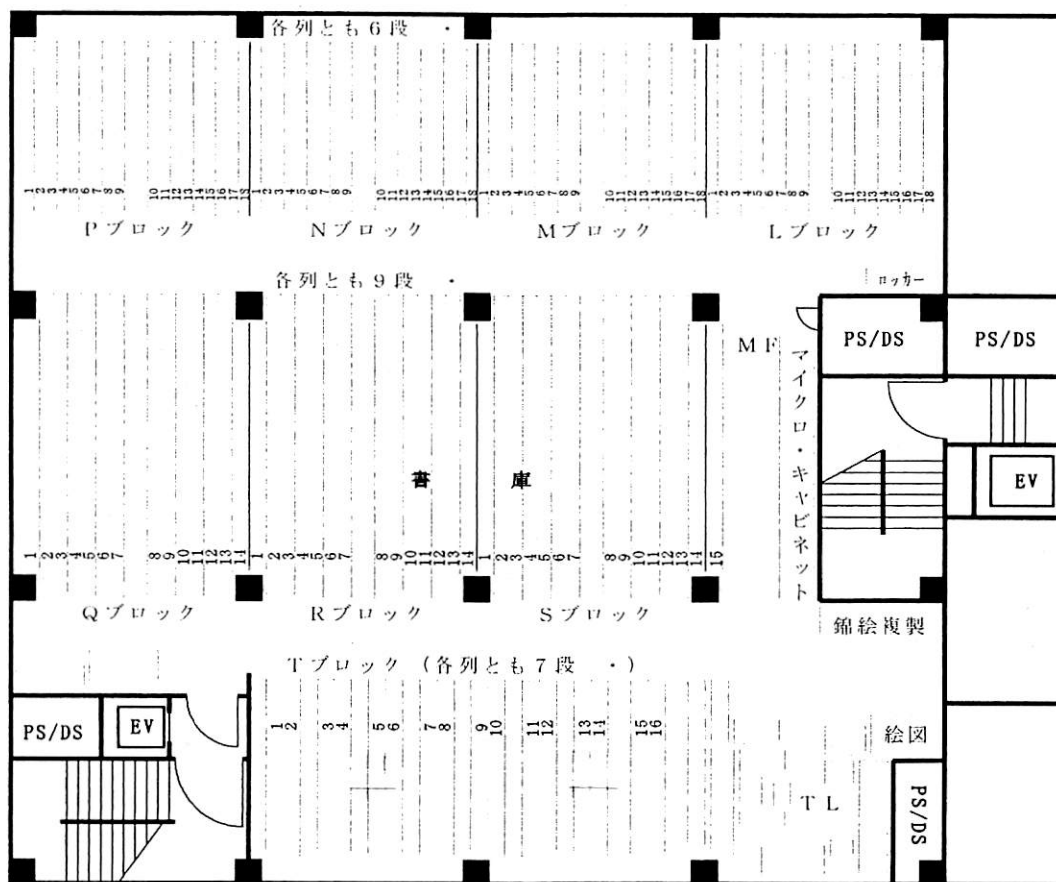
棚への文書群の配列は、史料の識別番号(整理番号)順の「配列順目録」にもとづく。史料群ごと配列順目録がない場合は保存措置が行えない。この目録には、史料の物理的な配列、史料のマトマリの識別番号と枝番、数量・形態、史料形態の特徴、整理時の保存状態、内容表題(年代、作成・差出、宛先など)など、史料整理での内容データが含まれる。また、配列順目録は、配列順に並べる基本データであり、史料一点ごとに内容データと保存措置・劣化状態調査・修復記録・利用回数の照合を可能とする。年代順にして、近世・近代の時代的比率から和紙・洋紙の比率を推測することもできる。その場合、洋紙生産が和紙を上回る1912(大正元)年を区切りに点数を算出しその傾向をみる事ができる。IV-3の紙質調査にあたっては、史料群自体の組織が作成したか授受かの比率に分け、紙質判別の判断に用いる。

配架ロケーションに保存措置の進捗状況(図表3-9の「保存措置期間・保存状態」)を分かり易く指示するため、箱内の状況を判断できる中身の状態写真や史料措置状況の記入、史料群の中でも保存措置や劣化状態のレベルが様々であることを示す、配架図の色分け記入方法などを検討している。

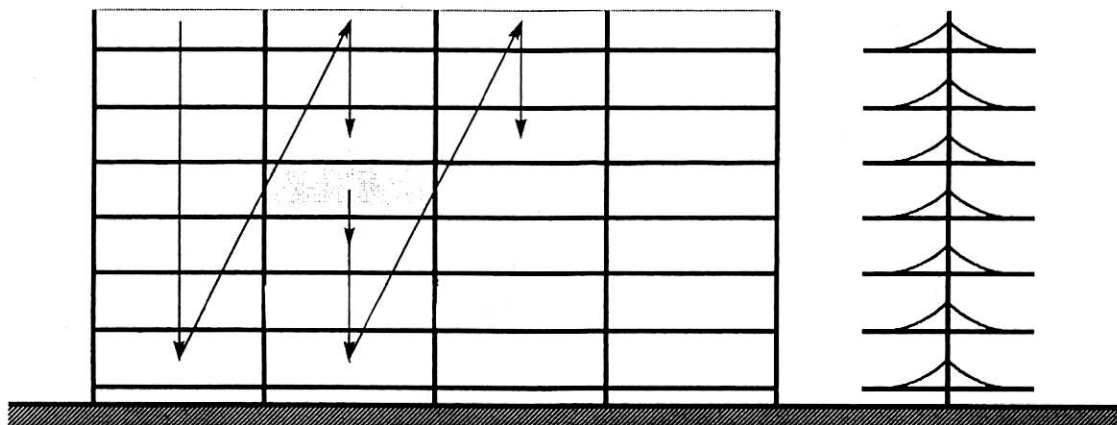
図表 3-1 アーカイブズ収蔵施設の現状



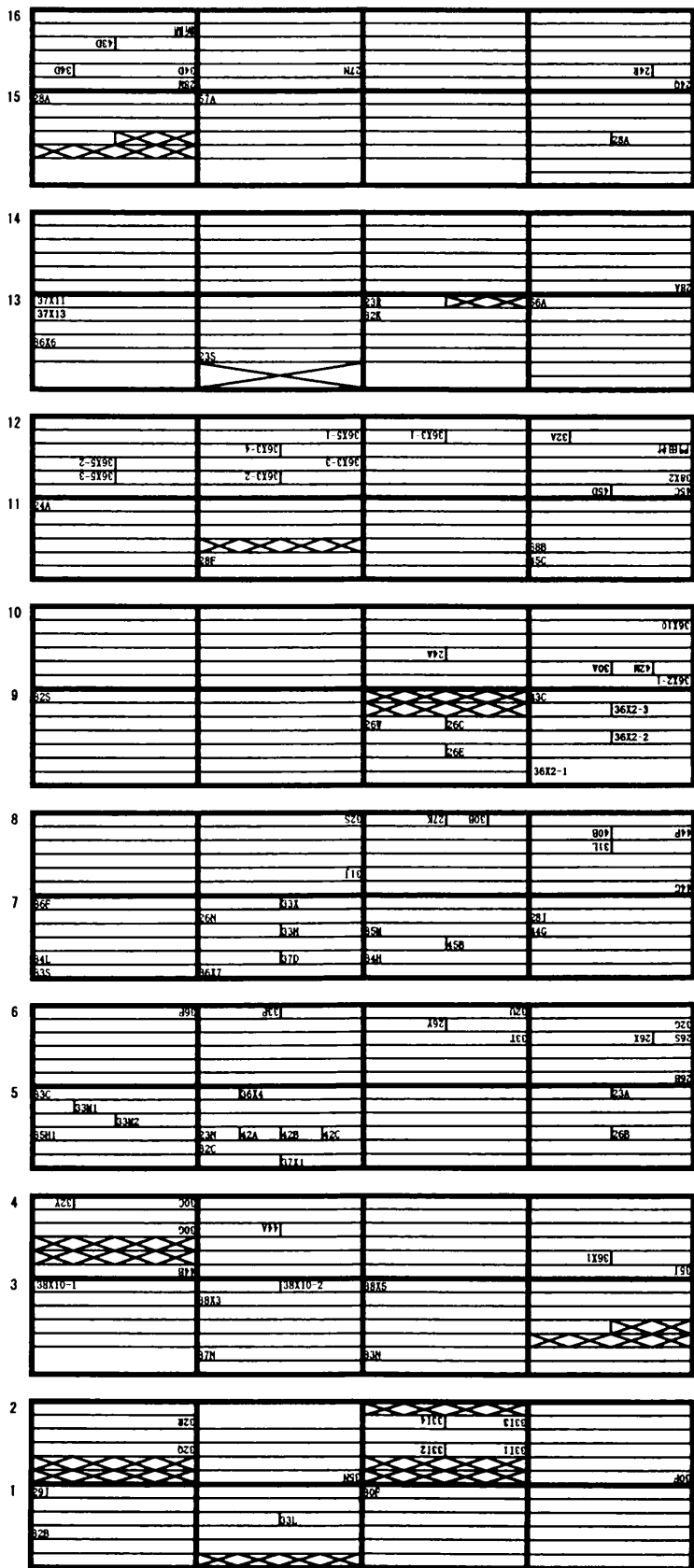
図表 3-2 アーカイブズ収蔵[東館地下]のロケーション



図表 3-3 収蔵棚の配列

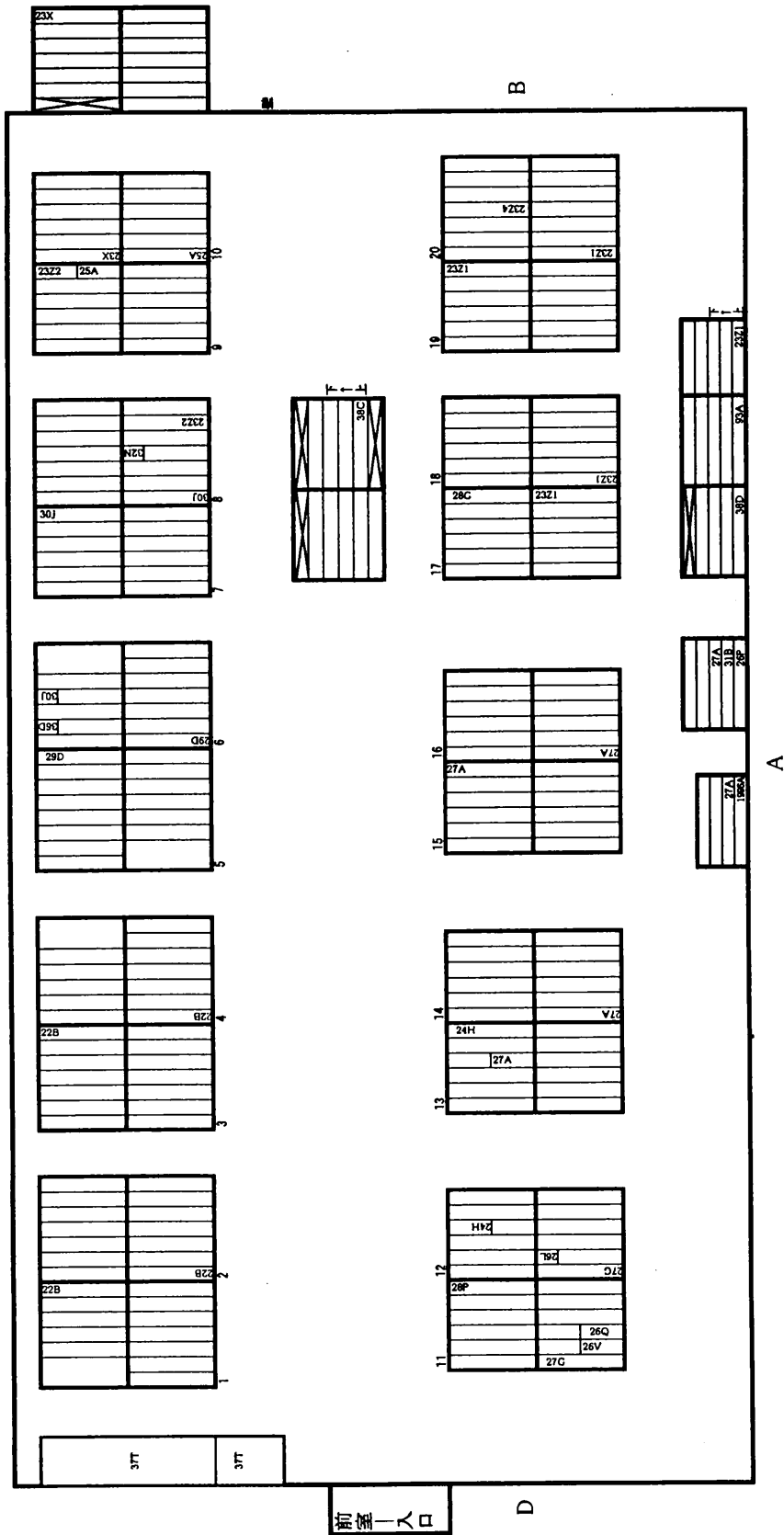


アーカイブズ保存のための物理的コントロールに関する現状

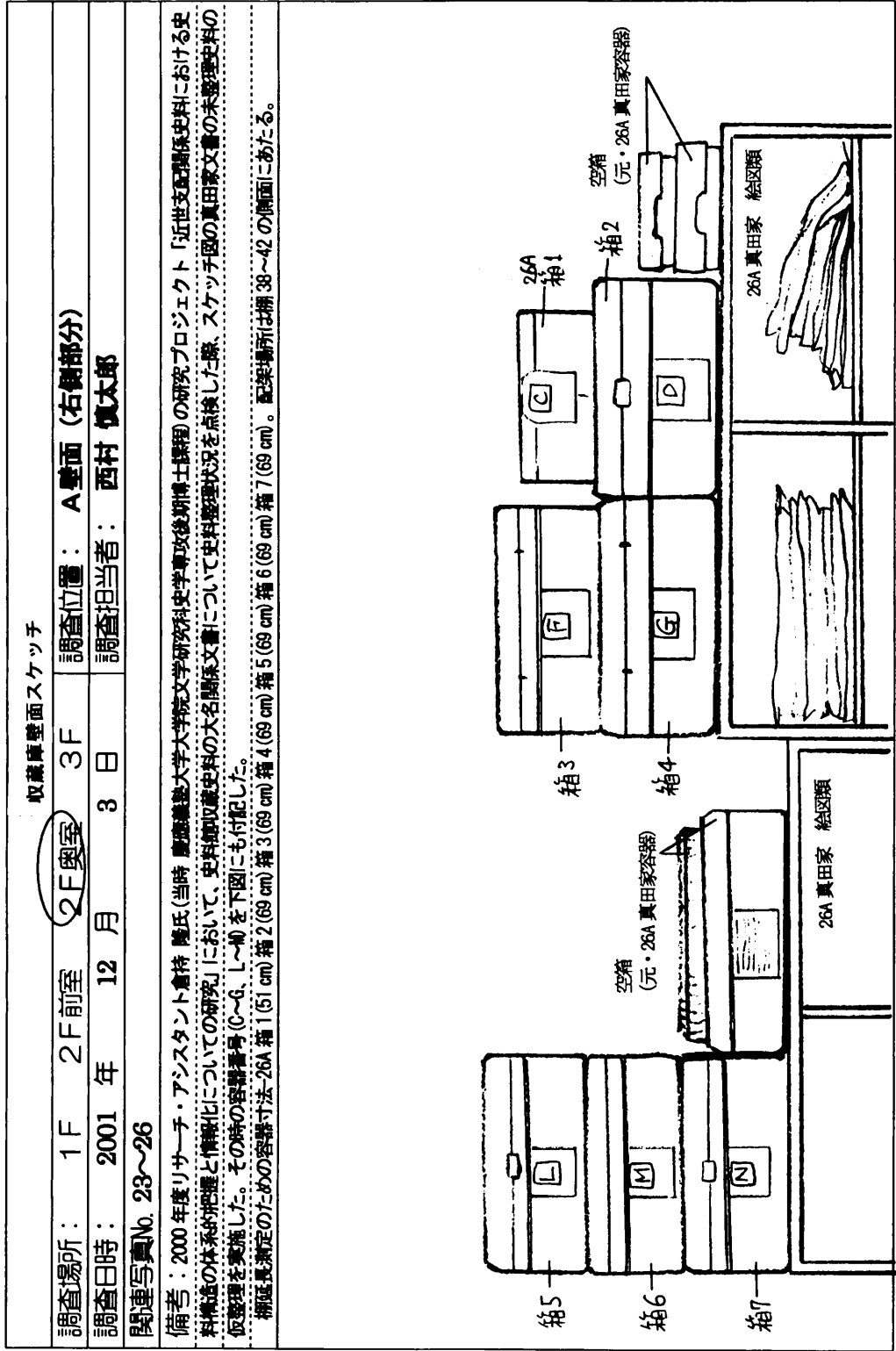


図表 3-4 アーカイブズ収蔵[東館地下-Tブロック]のロケーション

図表 3-5 アーカイブズ収蔵[北館1階]のロケーション



図表 3-6 収蔵庫壁面スケッチ



[上図の太字部分は、スケッチ図枠への記入事項である]

III-3 史料群の保存状態の把握

収蔵庫に配架した史料群単位の保存状態を把握するため、「史料群保存措置状況一覧」を作成した。その理由は、1986～90年にかけて所蔵史料保存改善費による「酸性紙封筒から中性紙保存容器への入れ替え」作業においての予防的保存措置の実施に向けた史料群選定の際、史料群ごとの保存措置の現状を正確に把握することの重要性を認識したからである。その後、史料群ごとの保存措置状況の進捗を把握することが必要になり、簡易的なリストで記録化してきた。

本格的に史料群ごとの状態把握を開始し、図表3-9「保存措置状況史料群一覧-配架順(記入例)」¹²⁾を作成した。2000年1月27日から2001年8月27日の間にまとめ、その後1年ごとに更新している。なお、保存措置状況史料群一覧は、基本的項目を網羅するため各パターンの表を作成している。ここでは簡易であるが各史料群の保存状態を把握できるタイプを掲載した。表の項目と内容について以下に示す。

①配架場所・配架位置・配架最終。図表3-4～5にあるの配架場所を記号化した。「配架場所」は収蔵庫の階数と地下の各セクション。「配架位置」は棚番号と最終位置。②文書群記号・史料群名。文書群記号は、受入した年の元号と西暦を用いている。受入年次と末項⑩の購入・収集先は、どのように受入たかの保存状態を知る重要な手がかりである。図表3-7は、年度別の収集件数を示している。1960(昭和35)年までに半数の史料が受け入れられている。収集先(図表3-8)は、直接原蔵者から受入たのではない古書店・故紙再生業者・蒐集者が70%を占める。また、一年間の受入件数が多く、原秩序が崩れて文書群同士の混合がおきた可能性が高く、保存状態も良好であったとは推測しがたい。保存履歴を推測するには有用な情報である。③保存措置期間・保存状態は。ここには保存措置を行なった年月日を記し、合わせて、現在どのような保存状態にあるかを示した。保存措置期間をみると、80年代後半から断続的に実施されているのが分かる。2001年度に収蔵庫全史料群の保存状態を調査した結果を記入した。「中性」・「酸性」・「収蔵時のママ」とは、「中性」・「酸性」はともに収納してある封筒の紙質、「収蔵時のママ」は文書封筒に納められていない資料が大量にある場合である。また、箱に収納されているものについては中性紙箱の場合[中ダ]、酸性紙箱の場合[新酸ダ]、酸性紙箱で市販のダンボールの転用については[旧酸ダ]と記した。そして文書群の保存措置状況を中性紙製包材による措置済みをもとに3として3レベルに分けた。その結果、収蔵時のままが14%、容器収納が86%、内中性紙製措置済みが46%であった。1991年段階からの保存措置の進捗を評価するデータである。しかし、まだ措置が不十分なものも多く、保存状態が2レベルが残されている。史料群としては保存状態が改善したといえるが、個別には酸性紙封筒・未措置のものがある。④容器番号。収蔵庫の棚に配架された物理的な封筒・箱の番号、そして末尾後の整理状況(未整理・仮整理・無番)を示した。⑤電子化は、2002年度段階までに電算化が進められている史料群について◎、途中のものは○、既刊目録のPDF化と示した。史料群の電子化が進むと未措置史料の利用が増す。よって保存に関する情報としても必要なものである。⑥目録・目録形態は、その目録のあり方から、既刊目録であれば一定の措置済み、カード目録は受入時の仮整理状態、容器内の状態が推測できる。⑦総点数は、『総覧』の数字である。⑧棚延長は、④の容器収納の分である。⑨棚内の整理状況・棚外の整理状況・棚外延長は、⑧以外の分の現状である。『総覧』にも未整理何箱とあるのを正確に計測した。配架延長は合計2847m16cm、棚外史料を含めた場合、2904m52cmである。⑩購入価格・購入先・収集先 価格欄には価格と混合受入をした文書群記号を記している。

図表3-9「保存措置状況史料群一覧-目録刊行順(記入例)」は、目録刊行後の保存状態を把握するためにリスト化した表である。刊行後でも、完全に保存措置が完了していないことがわかる。

以上、文書群ごとに保存管理に関わるデータを集約することにより、保存計画の査定の基本データとなることを提示した。

図表 3-7 年度別収集件数

収集年	件数	収集年	件数
昭和22	10	昭和56	1
昭和23	23	昭和57	1
昭和24	16 (15.3%)	昭和58	1
昭和25	7	昭和59	3
昭和26	25	昭和60	1
昭和27	12	昭和61	7 (1.9%)
昭和28	13	昭和62	
昭和29	6	昭和63	
昭和30	12	平成1	
昭和31	9 (41.5%)	平成2	
昭和32	19	平成3	1
昭和33	22	平成4	1
昭和34	10	平成5	1
昭和35	24	平成6	1
昭和36	31	平成7	1
昭和37	39	平成8	1 (1.9%)
昭和38	9	平成9	
昭和39	7	平成10	
昭和40	6	平成11	
昭和41	15 (36.1%)	平成12	1
昭和42	8	平成13	
昭和43	5	平成14	
昭和44	7	平成15	6
昭和45	5	平成16	1 (1.9%)
昭和46	1	平成17	
昭和47		合計件数	366
昭和48	1		
昭和49			
昭和50	1		
昭和51	5 (1.4%)		
昭和52			
昭和53			
昭和54	1		
昭和55	1		

図表 3-8 収集先

収集先	件数	
原蔵者	111	30.3%
古書店	120	32.8%
故紙再生業者	76	20.8%
蒐集者(個人)	41	11.2%
蒐集者(機関)	18	4.9%
計	366	

図表3-9 保存措置状況史料群一覧(配架順(記入例))

配架場所	配架位置	文庫群記号	史料名	保存措置期間・保存状態	容器番号(目録件数)	電算化目録	目録の形態	総点数	期延長(m)	庫内の管理状況	庫外延長(m)	期入価格	収蔵先
1F	1	4 22B	陸奥国弘前津軽家文書	1987.2~1987.8.3/中性(不十分)	1~3092/2003階書より特番分653点	PDF 12	【史料館所蔵史料目録】12	5299点 因書特番分653点	6372	-	-	古書店	収蔵先
1F	4	6 29D/36D	帯袴国土浦土城家文書	1987.2~3末/1987.7清/2002以前処置済(29D)/中性	1~2049無番	PDF 15	【史料館所蔵史料目録】15	4680点	2714	-	-	古書店	古書店
1F	6	8 30J	武蔵国多摩郡蓮光寺村高沢家文書	1985末/1986末/1988.2~3末/中性	1~1270	PDF 06	【史料館所蔵史料目録】06	9715点	2223	仮管理箱(50cm)	-	古書店	収蔵先
1F	6	0 36D/43B	香林国土浦大久保家文書	1987.清/中性	36D1~190/43B1~155参考1~3	PDF 15	【史料館所蔵史料目録】15	158点	236	-	-	古書店	収蔵先
1F	8	0 32N	武蔵国多摩郡蓮光寺村高沢分家文書	1985.清/中性	1~277無番	PDF 06	【史料館所蔵史料目録】06	133	133	-	-	古書店	収蔵先
1F	8	9 23Z2	武蔵国相模郡太田村掛川家文書	1985.清/2002以前処置済/中性	1~1643無番	PDF 10	【史料館所蔵史料目録】10	2902点	1093	-	-	古書店	収蔵先
1F	9	0 25A	上野国佐久郡下海瀬村土屋家文書	1989.9.4清/2002以前処置済/中性	1~4287仮管理済	PDF 24	【史料館所蔵史料目録】24	6804点・61箱	2089	-	-	古書店	収蔵先
1F	10	0 23X	遠江国引佐郡賀賀宿中村家文書	1986.2/中性	1~1786	PDF 02/カ	【史料館所蔵史料目録】02/カード目録	3924点	1674	-	-	古書店	収蔵先
1F	11	1104 27G	伊勢国飯野郡菊和村大黒屋富山家文書	取巻時のママ	1~969参考	PDF 03	【史料館所蔵史料目録】03	1355点	331	-	-	古書店	収蔵先
1F	11	1102 26Q	伊勢国松坂山城岡水谷家文書	中性	1~33	PDF 03	カード目録	341点	62	-	-	古書店	収蔵先
1F	11	1103 26V/1996A	筑前国大坂垣町小嶋屋平井家文書	2002以前処置済(1996A)/1~95中性・中性/1996A101~107中性	1~95/1996A101~107	PDF 03	【史料館所蔵史料目録】03	109点	47	-	-	古書店	収蔵先
1F	11	1101 28P	近江国蒲生郡八幡町山形内川家文書	1986.2清/中性	1~939	PDF 30	【史料館所蔵史料目録】30	941点	1211	-	-	古書店	収蔵先
1F	12	13 24H/48A	出雲国松江松平家文書	1987.2~3清	1~109	PDF 04	【史料館所蔵史料目録】04	204点	609	-	-	古書店	収蔵先
1F	12	0 26L	摂津国大坂玉水町加納屋長田家文書	中性	1~3251	PDF 14	【史料館所蔵史料目録】14	13885点	871	-	-	古書店	収蔵先
1F	13	17 39C	阿波国徳島郡須賀家文書	1987.清/2002以前処置済(1996A)/1~95中性・中性/1996A101~107中性	27A1~1338/28G1:339~1499	PDF 04	【史料館所蔵史料目録】04	約7000点、仮整理(160点、28cm)	6563	仮管理箱1(37cm)/箱2(37cm)/箱3(37cm)/箱4(28cm)	-	古書店	収蔵先
1F	13	17 27A-1/28G	阿波国徳島郡須賀家文書	中性	1~1809	PDF 04	【史料館所蔵史料目録】04	720点	720	-	-	古書店	収蔵先
1F	17	20 23Z1	阿波国徳島郡須賀家文書	1987.7清/中性	1~168無番	PDF 08	【史料館所蔵史料目録】08	7246点	4909	-	-	古書店	収蔵先
1F	20	0 23Z4	阿波国徳島郡須賀家文書	1987.7清/中性	1~119未整理	PDF 10	【史料館所蔵史料目録】10	1466点	472	未整理2袋(15cm)	-	古書店	収蔵先
1F	60	0 1993A	武蔵国江戸麹川家文書	1987.7清/中性	1~97	PDF 04	【史料館所蔵史料目録】04	387点	425	-	-	古書店	収蔵先
1F	60	0 27A-2	徳島古抄	1994清/中性	1~65	PDF 04	【史料館所蔵史料目録】04	190点	369	-	-	古書店	収蔵先
1F	60	0 38D	小杉郡都取家文書	1987.7清/中性	1~103未整理	PDF 04	【史料館所蔵史料目録】04	141点	340	未整理箱(34cm)	-	古書店	収蔵先
1F	60	0 26P	伊勢国松坂城家文書	1989.3清/中性(不十分)	1~69	PDF 04	【史料館所蔵史料目録】04	178点	110	-	-	古書店	収蔵先
1F	60	0 31B	伊勢国比佐古文庫山道文書	清/2002以前処置済/中性	1~70未整理	PDF 04	【史料館所蔵史料目録】04	210点	69	未整理1袋(26cm)	-	古書店	収蔵先
T	1	0 37E	和歌山県伊都郡向御村山野家文書	調査中	調査中	-	-	112点	-	調査中	-	古書店	収蔵先
T	1	0 29J	文庫国多芸郡志津村高木家文書	1987.8清 500まで/中性・中性・取巻時のママ(中夕) [出後夕未整理分]	1~1162未整理	PDF 04	【史料館所蔵史料目録】04	1162件	354	-	-	古書店	収蔵先
T	1	2 30F	美濃国石津郡市之瀬村三宅家文書	中性・中性・取巻時のママ(中夕) [出後夕未整理分]	1~737無番未整理	PDF 04	【史料館所蔵史料目録】04	1563点	2112	未整理箱1(51cm)/箱2(53cm)/箱3(50cm)/箱4(50cm)/箱5(50cm)/箱6(50cm)	-	古書店	収蔵先
T	1	0 32B/33L	美濃国多芸郡大場村松美家文書	1987.8清/33Lについて(2002以前処置済) /中性・取巻時のママ(中夕)1271	32B1~950無番/33L.951~1408	PDF 04	【史料館所蔵史料目録】04	1476点	263	一括未整理箱(72cm)	-	古書店	収蔵先

アーカイブズ保存のための物理的コントロールに関する現状

配置場所	配置位置	配置最終	文書群記号	史料名	保存措置期間・保存状態	登録番号(目録件数)	目録の形態	総点数	物延長 (m)	棚内の修理状況	棚外の修理状況	棚内延長 (m)	購入価格	収集先
T	2	0	33N-2	出雲国高根郡北津武村文書	仮修理中	33N-1とも	カード目録	22通	793	一括未修理箱1(50cm)/箱2(50cm)/箱3(50cm)/箱4(50cm)/箱5(50cm)/箱6(50cm)/箱7(50cm)/箱8(50cm)/箱9(50cm)/未修理箱(59cm)			古書店	古書店
T	2	0	35N	岐阜県中島郡大須村丁長役場文書	収蔵時のママ [中夕] [附黒山酸欠]	1~175附風	カード目録	406点					古書店	古書店
T	2	0	33I-1	美濃国本巣郡文殊村文書	中性 (不十分) [中夕] 1~4	1~11	仮目録B	61点	56	一括未修理箱(50cm)			古書店	古書店
T	2	0	33I-2	筑摩県・長野県布達類	収蔵時のママ [中夕]	12~21	仮目録B	28冊	160	一括未修理箱1(43cm)/箱2(43cm)/箱3(43cm)			古書店	古書店
T	2	0	33I-3	下野国足利郡岩井村文書	中性・収蔵時のママ [山酸欠]	22~27無番	仮目録B	49点	48	一括未修理箱(49cm)			古書店	古書店
T	2	0	33I-4	美濃国不破郡府中村貫租史料	酸性 [中夕]	28~32	仮目録B	63通	42	一括未修理箱(50cm)			古書店	古書店
T	2	0	32Q	美濃国本巣郡岩井中島村書本家文書	酸性 [中夕]	1~156	カード目録	406点	236	一括未修理箱(50cm)			蒐集者個人	蒐集者個人
T	2	0	37N	美濃国大野郡鹿野村栗野郷立書	中性 (不十分) [新酸欠]	1~330	カード目録	602点	236				古書店	古書店
T	2	0	35U	美濃国安八郡平村文書	調査中	35U本通四巻共郡下笠村語家文書之も	仮目録B	28点					古書店	古書店
T	2	0	32R	美濃国厚見郡日野新田村村漏家文書	酸性・収蔵時のママ [中夕]	1~42番号未照合	カード目録	385点	236	一括未修理箱(50cm)/未修理箱1(50cm)/箱2(50cm)/箱3(50cm)			古書店	古書店
T	3	0	33N-1	近江国蒲生郡南津田村文書	酸性 [新酸欠] [未修理分出酸欠]	1~1005仮修理中	カード目録	1008点、未9箱	1360	仮修理中箱1(34cm)/箱2(34cm)/箱3(34cm)/箱4(34cm)/箱5(34cm)/箱6(34cm)/箱7(34cm)/箱8(34cm)/箱9(34cm)/箱10(34cm)/箱11(34cm)/箱12(34cm)/箱13(34cm)/箱14(34cm)/箱15(34cm)/箱16(34cm)/箱17(34cm)/仮修理中箱1(34cm)/箱2(34cm)			古書店	古書店
T	3	0	37X10-1	美濃国不破郡表佐村飯沼家文書	中性 (不十分) [新酸欠]	1~290	仮目録B	580点	778	一括未修理箱1(34cm)/箱2(34cm)/箱3(34cm)/箱4(34cm)/箱5(34cm)			古書店	古書店
T	3	0	37X10-2	近江国草津郡高橋村野本家文書	中性 (不十分) [新酸欠]	291~298	仮目録B	17点	34	一括未修理箱(34cm)			古書店	古書店
T	3	0	38X3	岐阜県大野郡丹生川村役場文書	中性 (不十分) [新酸欠]	1~165	仮目録A	204点	472	一括未修理箱1(34cm)/箱2(34cm)/箱3(34cm)/箱4(34cm)/箱5(34cm)/箱6(34cm)/箱7(34cm)/箱8(34cm)/箱9(34cm)/箱10(34cm)/箱11(34cm)/箱12(34cm)			古書店	古書店
T	3	0	38X4	美濃国安八郡更屋敷村早崎家文書	酸性 [新酸欠]	1~926未整理	仮目録A	1256点	590	一括未修理箱1(24cm)/箱2(34cm)/箱3(34cm)/箱4(34cm)/箱5(34cm)/箱6(34cm)/箱7(34cm)/箱8(34cm)/箱9(34cm)/箱10(34cm)/箱11(34cm)/箱12(34cm)			古書店	古書店
T	4	0	30G	近江国甲賀郡日靖野村大原家文書	酸性 [中夕]	1~217無番	カード目録	337点	236	一括未修理箱1(50cm)/箱2(50cm)/箱3(50cm)/箱4(50cm)			古書店	古書店
T	4	0	30C	近江国甲賀郡砂蔵寺村奥村家文書	中性	1~47	未整理史料仮整理	未50点/47点	28				古書店	古書店
T	4	0	30C/31E	伊賀国名張郡夏見村深山家文書	中性	30C1~33/31E1~24	仮目録A	68点	33				古書店	古書店
T	4	0	32Y	近江国甲賀郡信楽代官協定目録	中性	2のみ		1冊	5				古書店	古書店
T	4	0	35I/44A/44B	近江国蒲生郡鎮村玉尾家文書	35I1~392中性/36X1401~1681中性・酸性/44A2001~2765酸性/44B3001~3044酸性・収蔵時のママ	35I1~392/36X1401~1681/44A2001~2765/44B3001~3044	PDF 23【史料館所蔵史料目録】23	248点	2227				古書店	古書店
T	5	0	42A	志摩国善志郡島羽須藤家文書	酸性	1~25	カード目録	26点	10				調査中	調査中
T	5	0	42B	志摩国善志郡島羽鈴木家文書	酸性	1~140	C-ベ 別冊仮目録	149点	33				調査中	調査中

配架場 所	配架 位置	配架 資料	文書群 記号	史料名	依存措置期間・保存状態	容器番号(目録種類)	電算化	目録の形態	総点数	冊延 長さ (m)	館内の整理状況	館外の整理状況	購入価格	収蔵元
T	5	0 42C		志摩国伊勢郡志保島高砂屋澤村家文書	酸性	1~38	-	カード目録	85点	15			調査中	故紙再生業者
T	5	0 35H-1		伊勢国桑名郡桑田村花巻引継文書	取巻時のママ【新巻夕】	1~313	-	仮目録B	313	424			原蔵者	故紙再生業者
T	5	0 35H-2		伊勢国飯野郡阿波竹村文書	調査中	35H-1ととも	-	仮目録B	30点				古書店	故紙再生業者
T	5	0 36X4		伊勢国高島郡多木ノ町花巻引継文書	取巻時のママ【新巻夕】	1~51	-	カード目録	88点	270	一括未整理箱(194cm)/箱2(34cm)/箱3(34cm)/箱4(34cm)/箱5(34cm)/箱6(34cm)/箱7(34cm)		古書店	故紙再生業者
T	5	6 26B		山城国京都府洛水谷家文書	2002以前処置済/中性	1~394	PDF	【史料館所蔵史料目録】63	809点	634				
T	5	0 23A		山城国京都府三条西家文書	2002以前処置済/中性	1~169	PDF	【史料館所蔵史料目録】68/仮目録B	824点、962点	306				
T	5	0 23N		伊勢国桑名郡木曾榊輪中文書	中性	9894~9957	○	仮目録B	67冊	32				蒐集者個人
T	5	0 32C		伊勢国多気郡富宮村乾家文書	酸性【新巻夕】	1~109	○	仮目録B	1005点	189	一括未整理箱(194cm)/箱2(34cm)/箱3(34cm)/箱4(34cm)/箱5(34cm)			故紙再生業者
T	5	0 33C		近江国坂田郡柳井村文書	取巻時のママ【新巻夕】	1~45未整理	-	カード目録	60点	153	未整理箱(34cm)/2束			故紙再生業者
T	5	0 33M-1		近江国野洲郡開発村木居高谷家文書	取巻時のママ【新巻夕】	1~12	-	カード目録	86冊	139				故紙再生業者
T	5	0 33M-2		近江国野洲郡中里村西川原田中家文書	取巻時のママ【新巻夕】	13~46	-	カード目録	25冊	34				故紙再生業者
T	5	0 37X1		志摩国美濃郡名田村文書	酸性【新巻夕】	1~619未整理	○	カード目録	1506点	774	未整理3袋(15cm)			古紙再生業者
T	6	0 26X		山城国京都府飛鳥井雅彦日記	2002以前処置済/中性	1~7	PDF	【史料館所蔵史料目録】68/カード目録	7冊	24				蒐集者個人
T	6	0 26Y		山城国京都府福玄斎助家記	2002以前処置済/取巻時のママ【中夕】	1~6生【中夕】	PDF	【史料館所蔵史料目録】68/カード目録	6冊	42				蒐集者個人
T	6	0 26S		山城国京都府都賀興丁文書	2002以前処置済/中性	1~31	PDF	【史料館所蔵史料目録】68/カード目録	31点、32点	24				蒐集者個人
T	6	0 32C/33T		山城国京都府徳大寺家文書	2002以前処置済/中性	32G1~34G/33T347~712	PDF	【史料館所蔵史料目録】68/仮目録B	未約150点	753				古書店
T	6	0 32U/33F		山城国京都府久世家文書	32U1~640/33F800~2275	32U1~640/33F800~2275	PDF	【史料館所蔵史料目録】31	2300余	1410				古書店
T	6	7 36F		山城国京都府平松家文書	酸性	1~2076様	PDF	【史料館所蔵史料目録】31	2076点	628	未整理袋(2cm)			原蔵者
T	7	8 44G		紀伊国伊都郡藤原村文書	中性	1~1553未整理	PDF	【史料館所蔵史料目録】46	2019点	894	未整理箱(66cm)			調査中
T	7	0 26N		山城国島野郡崎崎天徳寺文書	2002以前処置済/中性	1~302	PDF	【史料館所蔵史料目録】63	303点	156				蒐集者個人
T	7	0 34L		丹波国加佐郡田辺三宅家文書	調査中	調査中	-			37	未整理箱(160cm)/箱2(56cm)			古書店
T	7	0 36X7		京都府熊野郡久美浜町引継文書	取巻時のママ【新巻夕】	1~44	-	カード目録	164点	354	一括未整理箱(194cm)/箱2(34cm)/箱3(34cm)/箱4(34cm)/箱5(34cm)/箱6(34cm)/箱7(34cm)/箱8(34cm)			故紙再生業者
T	7	0 28J		紀伊国和歌山県宮田郡伊都郡上志保山出小屋家文書	1989.2~/中性	1~74	○	カード目録	110点	118				古書店
T	7	0 33H		山城国京都府堀之上町方堀小堀家文書	2002以前処置済		PDF	【史料館所蔵史料目録】68/仮目録B	約380点、929点	236				古書店
T	7	0 33X		山城国乙訓郡長野新田村三七家文書	2002以前処置済/中性	1~71	PDF	【史料館所蔵史料目録】63	384点	60				古書店
T	7	0 33S		山城国京都府三条家文書	2002以前処置済/中性	1~50	PDF	【史料館所蔵史料目録】63	77点	163				古書店
T	7	0 35M/45B		山城国京都府二条家文書	2002以前処置済/中性・取巻時のママ	35M1~212/45B1~12	PDF	【史料館所蔵史料目録】68	12冊、未整理あり	226				古書店

アーカイブズ保存のための物理的コントロールに関する現状

配架場 所	配架 位置	配架 架数	文書群 記号	史料名	保存措置期間・保存形態	電算化	目録	目録の形態	総点数	長さ (m)	室内の整理状況	庫外の整理状況	購入価格	収蔵先
T	7	0	37D	山城国乙訓郡斐川村文書	中性	PDF	63	『史料館所蔵史料目録』63 仮目録B	153点	50			古書店	収蔵者
T	7	0	34H	大和国吉野郡中壇村文書	中性(不十分) 【新 蔵】	○	B	仮目録B	527点、未 3袋	306	一括未整理箱1034cm/箱2034cm/ 箱3034cm/箱4034cm/箱5034cm/ 箱6034cm/箱7034cm/箱8034cm		古書店	故蔵再生業者
T	8	0	27K	摂津国東成郡天王寺村文書	中性(不十分)	・	カ	カード目録	44冊	133			古書店	収蔵者
T	8	0	30B-1	摂津国大坂豊後町泉屋往左家文書	中性	○	A	仮目録A	64点	11			古書店	収蔵者
T	8	0	31L	紀伊国牟婁郡新宮町水野家文書	酸性	○	B	仮目録B	47点	16			古書店	収蔵者
T	8	9	31J/32S	和歌山県上神谷豊田村小倉家文書	酸性	PDF	36	『史料館所蔵史料目録』36 カード目録	7222点	2950	74 調査中		原蔵者	収蔵者
T	8	0	44E	和歌山県上神谷豊田村家文書	収蔵時のママ【中々 18~】	●	カ	カード目録	124点	74			古書店	収蔵者
T	8	0	40B	摂津国葛上郡水室村吉田家文書	収蔵時のママ【新蔵 71~38・238~機】	●	カ	カード目録	1109点	813			古書店	収蔵者
T	9	0	26W	摂津国八咫郡兵衛津北風家文書	中性	・	B	仮目録B	10冊	24			蒐集者個人	収蔵者
T	9	10	36X2-1	兵庫県印南郡岩根村戸長役場文書	収蔵時のママ【新蔵 76~132 【中々155~ 収蔵時のママ【新蔵 71~75 機】	・	カ	カード目録	132点	270	一括未整理箱1034cm/箱2034cm/ 箱3034cm/箱4034cm/箱5034cm/ 箱6034cm/箱7034cm		古書店	故蔵再生業者
T	9	0	36X2-2	兵庫県加古郡荒井村戸長役場文書	中性【新蔵76~132 生】【中々155~ 収蔵時のママ【新蔵 71~75 機】	・	カ	カード目録	166点	188	一括未整理箱1034cm/箱2034cm/ 箱3034cm		古書店	故蔵再生業者
T	9	0	36X2-3	兵庫県加古郡下村組戸長役場文書	酸性	・	カ	カード目録	278点	222	一括未整理箱1034cm/箱2034cm/ 箱3034cm/箱4034cm/箱5034cm/ 箱6034cm		原蔵者	故蔵再生業者
T	9	0	43C	播磨国神楽郡形村池田家文書	酸性	PDF	21	『史料館所蔵史料目録』21 仮目録B	378点	148			原蔵者	収蔵者
T	9	0	26C/26E	播磨国加古郡下西条村大西家文書	26C1~255中性/26E1 ~139中性【新蔵75 ~生】	○	B	仮目録B	608点	551			原蔵者	収蔵者
T	10	0	42H	備前国築三大区々務所文書	中性	●	カ	カード目録	14冊	17			蒐集者個人	収蔵者
T	10	0	30A	和泉国根郡佐野村食野家文書	酸性・中性	○	A	仮目録A	約700点、 未1冊	289			古書店	収蔵者
T	10	11	24A	伊予国伊予郡上野村玉井家文書	中性・酸性	PDF	20/ 仮	『史料館所蔵史料目録』20/ 未整理史料仮 目録A	約4050 点、未 整理史料仮 目録B	2874			原蔵者	収蔵者
T	10	0	36X10	摂津国川辺郡上ノ島村岡村家文書	中性・酸性・収蔵時 のママ【新蔵71 機】	・	カ	カード目録	424点	242	一括未整理箱1034cm/箱2034cm/ 箱3034cm/箱4034cm/箱5034cm/ 箱6034cm/箱7034cm/箱8034cm/ 箱9034cm/箱10034cm/箱 11034cm/箱12034cm/箱13034cm/ 箱14034cm		古書店	故蔵再生業者
T	11	0	38B	出雲国仁多郡福田村安原家文書	中性(不十分) 【新 蔵71 機】	●	カ	カード目録	66点	118			調査中	調査中
T	11	12	45C	出雲国鞆郡大谷村戸谷家文書	中性(不十分) 【新 蔵71 機】	・	A/ カ	仮目録A/カ ード目録	397点	306			調査中	調査中
T	11	0	28F	出雲国大原郡大東町木村家文書	収蔵時のママ【新蔵 71~300未整理 機】	・	カ	カード目録	780点、未 34箱	1298	未整理箱1034cm/箱2034cm		原蔵者	収蔵者
T	12	0	30M-3	備前国後月郡門田村三好家文書	元番号不明。03.1.27に ここに加工文/中性・ 収蔵時のママ【新蔵 71 機】	・	仮	未整理史料仮 目録A	未230点・ 2括・4箱 /559点	188	一括未整理箱1034cm/箱2034cm/ 箱3034cm/箱4034cm		原蔵者	故蔵再生業者
T	12	0	36X3-2	京都府中郡五箇村役場文書	収蔵時のママ【新蔵 71 機】	・	カ	カード目録	48点	34	一括未整理箱(34cm)		調査中	故蔵再生業者
T	12	0	36X3-3	兵庫県川郡南米田村外七箇村戸長役場文書	中性(不十分) 【新 蔵71 機】	・	カ	カード目録	66点	152	一括未整理箱1034cm/箱2034cm/ 箱3034cm		原蔵者	故蔵再生業者
T	12	0	36X3-4	京都府天田郡免原村役場文書	収蔵時のママ【新蔵 71 機】	・	カ	カード目録	47点	70	一括未整理箱1034cm/箱2034cm		原蔵者	故蔵再生業者

配架場所	配架位置	配架位置	配架位置	文書群記号	史料名	保存措置期間・保存状態	容器番号(山録件数)	電算化目録	目録の形態	総点数	物理長(m)	棚内の整理状況	棚外の整理状況	棚外延長(m)	購入価格	収集先
T	12	0	36X5-1		岡山県勝北郡勝田村役場引継文書	収蔵時のママ【新巻タ】	1~117	○	カード目録	201点、未11冊	424	一括未整理箱1134cm/箱234cm/箱334cm/箱434cm/箱534cm/箱634cm/箱734cm/箱834cm/箱934cm/箱1034cm/箱1134cm				故紙再生業者
T	12	0	36X5-2		広島県沼隈郡浦崎村役場文書	収蔵時のママ【新巻タ】	136~258	○	カード目録	304点	388	一括未整理箱134cm/箱234cm/箱334cm/箱434cm/箱534cm/箱634cm/箱734cm/箱834cm/箱934cm/箱1034cm				故紙再生業者
T	12	0	36X5-3		広島県沼隈郡百島村役場文書	中性【新巻タ123~】	118~135	○	カード目録	39冊	105	一括未整理箱104cm				故紙再生業者
T	12	0	38X2		美作国勝南郡諸村文書類	収蔵時のママ【新巻タ】 【山録タ未整理分】。38X2大岡家のこと	1~89未整理。38X2大岡家のこと	○	ナ							故紙再生業者
T	12	0	45D		出雲国仁多郡下布施村儀語屋文書	中性【新巻タ】	1~76	○	A/ カ	228点	34	一括未整理箱104cm				古書店
T	12	0	32A		美作国西北条郡西一宮村中島家文書	1~394中性【新巻タ1~137収蔵時のママ。221~】 【旧巻タ220~221】	1~394	○	B	1069点	694	一括未整理箱134cm/箱234cm/箱334cm/箱434cm/箱528cm/箱628cm/箱734cm/箱834cm/箱934cm/箱1034cm/箱1134cm/箱1234cm/箱1334cm/箱1434cm/箱1534cm/箱1634cm				故紙再生業者
T	12	0	36X3-1		岡山県津高郡福山村役場引継文書	中性【新巻タ6~8】 中性・収蔵時のママ	1~67、68~81は【36X3】と記載	○	カード目録	183点、未15冊	347	一括未整理箱104cm/箱234cm/箱334cm/箱434cm/箱534cm/箱634cm/箱734cm/箱834cm				古紙再生業者
T	12	0	38X2		岡山県勝南郡池原村大岡家文書	収蔵時のママ【新巻タ】 【山録タ未整理分】	1~89未整理	○	B	143点	236	調査中				古紙再生業者
T	13	0	36X6		広島県沼田郡小河内村役場文書	中性・収蔵時のママ【新巻タ】	1~326	○	B	281点	826					故紙再生業者
T	13	0	25S		長門国清未毛利家文書	中性・収蔵時のママ【新巻タ】	10091~10174	○	B	89点	118	一括未整理箱104cm/箱234cm				故紙再生業者
T	13	0	23R		山口県吉敷郡仁保村高木家文書	中性・中性・酸性	10080~10090	○	B	11点	69					蒐集者・個人
T	13	0	56A/1992A		徳島県阿智郡森町村山田家文書	酸性【中タ】	56A1~914酸性【中タ52~99生・797~866酸性】/1992A	○	C<	1857点	826					原蔵者
T	13	0	32K		長門国厚狭郡祿液村三隅家文書	中性【旧巻タ未整理分】	1~334未整理	○	B/ B	403点、未4箱/217点	590	未整理箱1633cm/箱2148cm				故紙再生業者
T	13	0	37X11		美作国勝南郡和田村小林家文書	中性【新巻タ】	1~54	○	B	54点	118					古紙再生業者
T	13	0	37X13		岡山県上房郡上竹庄村役場文書	中性(不十分)・収蔵時のママ【新巻タ】	1~41未整理	○	カード目録	85点	236					古紙再生業者
T	14	15	28A/57A		越後国頸城郡岩手村佐藤家文書	2002以前処置済(その3、その4)/中性・酸性	28A1~8000・11023 PDF 12075/57A8001~11022	○	PDF 38/4 9/32 史料目録 /60 38/49/52/60	12074点	5524					古書店
T	16	0	28M		徳米閣取集古文書	1989.2~中性【中タ16~】 中性・収蔵時のママ	1~47		カード目録	47点	118					古書店
T	16	0	34D/35X		占屋幸太郎取集文書	2002以前処置済(35X)/34D1~15巻性【中タ1~11生】 /35X1~83雑無番中性	34D1~15/35X1~83雑無番		カード目録	343点	249	一括未整理箱41cm				古書店
T	16	0	24Q		浜村栄三郎取集文書	収蔵時のママ【中性】	51855~52470		B	625点	194					蒐集者・個人
T	16	0	43D		薄井福治記録	収蔵時のママ	1~75		カード目録	120点	90					蒐集者・個人
T	16	0	27N		諸礼書	中性	1~693		B カ ト目録	693点	590					蒐集者・個人
T	16	0	24R		三井高維取集文書	中性	1~755	PDF	30	531点	1325					原蔵者

アーカイブズ保存のための物理的コントロールに関する現状

図表3-10 保存措置状況史料群一覽-目録刊行順(記入例)

配架場所	配架位置	配架架台	文書群番号	史料名	保存措置期間・保存状態	容器番号(目録作成)	電算化目録	目録の形態	総点数	冊延長(m)	冊内の管理状況	冊外の管理状況	購入場所	収蔵先
3F	7	8 24B		遠江国佐野郡桑地村加茂家文書	取蔵時のママ	1~340未整理	PDF 01	「史料館所蔵史料目録」01	1749点	668	一括未整理(668cm)		東京各個人	
3F	9	10 24C		遠江国榛原郡嶋村山田家文書	取蔵時のママ	1~146(11冊のマ)	PDF 01	「史料館所蔵史料目録」01	4533点	2436	一括未整理21冊(2136cm)		東京各個人	
3F	7	710 26M		駿河国富士郡岩木村文書	取蔵時のママ	1~463	PDF 02	「史料館所蔵史料目録」02	462点・75冊	205			東京各個人	
1F	10	0 23X		遠江国引佐郡気賀宿村家文書	1986.2/中性	1~1786	PDF 03	「史料館所蔵史料目録」02/カ	3924点	1674			東京各個人	
2F	19	1902 26U		武蔵国江戸金吹町播磨屋中井家文書	中性	1~88	PDF 03	「史料館所蔵史料目録」03	88点	575			東京各個人	
1F	11	1103 26V/1996A		摂津国大坂塩町小幡屋平井家文書	2002以前処置済(1996A)/1~95H+中性・中性/1996A101~107	1~95/1996A101~107	PDF 03	「史料館所蔵史料目録」03	109点	47			東京各個人	
2F	18	1809 26Z		武蔵国川越横田家文書	取蔵時のママ	1~360	PDF 03	「史料館所蔵史料目録」03	1217点	115			東京各個人	
1F	11	1104 27G		伊勢国海野郡時和村大黒山家文書	取蔵時のママ	1~969参考	PDF 03	「史料館所蔵史料目録」03	1355点	331			東京各個人	
1F	12	13 24H/48A		出雲国松江松平家文書	1987.2~3済	1~109	PDF 04	「史料館所蔵史料目録」04	204点	609			原蔵者	
1F	13	17 27A-1/28G		阿波国徳島蜂須賀家文書	1987済/2002以前処置済(A-1)/中性/2004版整理中	27A1~1338/28G1339~1499	PDF 04	「史料館所蔵史料目録」04	約7000点、取整理(160点)	6563	版整理箱(137cm)/箱237cm/箱337cm/箱437cm/箱56cm/箱(29cm)		古書店	
1F	60	0 27A-2		徳古雑抄	1987.2済/中性	1~65	PDF 04	「史料館所蔵史料目録」04	190点	369			古書店	
3F	1	3 27D/29A/30E/60A		甲斐国山梨郡下井尻村依田家文書	1987.8済/27D1~3400中性・3562~5520H中性/29A3401~3561H中性/30E/60A5519~5663中性	27D1~3400・3562~5520/29A3401~3561/30E/60A5519~5663	PDF 05/13/別	「史料館所蔵史料目録」05	5663点	3795			原蔵者	
1F	6	8 30J		武蔵国多摩郡連光寺村富沢家文書	1985未/1988未/1988.2~3未/中性	1~1270	PDF 06	「史料館所蔵史料目録」06	9715点	2223	版整理箱(50cm)		原蔵者	
1F	8	0 32N		武蔵国多摩郡連光寺村富沢分家文書	1985.済/中性	1~277無番	PDF 06	「史料館所蔵史料目録」06	613点	133			原蔵者	
2F	9	13 28D		出羽国村山郡山家村山口家文書	1989.3~/2001.3/中性・中性・生	1~5044未整理	PDF 07/版	「史料館所蔵史料目録」07/未整理史料仮管理(77点/未分あり)	10557点	4511	一括未整理18冊(3184cm)/未整理一括未整理箱(70cm)冊(88cm)	70	原蔵者	
2F	18	1810 28T		武蔵国江戸東落町奈良原神田家文書	1988.8~10済/中性	1~82	PDF 08	「史料館所蔵史料目録」08	113点	53			東京各個人	
2F	6	7 34A/49A		出羽国山形形室輪寺文書	1989済カ/中性(不十分)	34A1~2882/49A3001~5460未整理	PDF 09/16	「史料館所蔵史料目録」09	9962点	2890			原蔵者	
1F	8	9 23Z2		武蔵国幡羅郡太田村掛川家文書	1985.済/2002以前処置済/中性	1~1643無番	PDF 10	「史料館所蔵史料目録」10	2902点	1093			東京各個人	
1F	20	0 23Z4		奈良文書	1987.7済/2002以前処置済/中性	1~119未整理	PDF 10	「史料館所蔵史料目録」10	1466点	472	未整理2袋(15cm)		東京各個人	
2F	18	1803 26R		武蔵国幡羅郡下奈良村吉田家文書	1988.8~10済/中性	1~133	PDF 10	「史料館所蔵史料目録」10	159点	115			東京各個人	
2F	8	801 41Q		出羽国村山郡小四村文書	中性	1~82	PDF 10/カ	「史料館所蔵史料目録」10/カ	217点	44			古書店	
N	15	17 37T		日本平家忠史博物館準備室田蔵史料	1987.7済/中性/2005.4公開準備中・保存措置済・中性	1~5541(書籍類生/古紙類1~2711(P15)類/圖書類分5738点/2005.4公開準備中	PDF 11/57/カ/未整理史料仮整理	「史料館所蔵史料目録」11/57/カ/未整理史料仮整理	2004冊点	9232			館内社	

IV アイテム単位の保存状態

アーカイブズは、長い年月をへ、現状に至っている。全体の物理的な状態を明らかにすることは、個々の残存史料がその中にあるべき位置がみえてくる。現秩序のあり方全体を物理的にとらえたところで、史料単位一点ごとの保存状態を把握しなければならない。

IV-1. 史料の劣化状態調査

収蔵史料保存の優先順位は、第一に予防的保存措置を全史料に実施し、史料を維持することにある。その際、保存容器への収納と平行し、劣化状態調査を実施し、効率的な調査を継続してきた。保存措置の副産物ともとらえることができるが、積極的に調査を位置づけた。しかし、電子情報化に向けて、これらの手書きによる状態調査票の保管と活用が問題となった。

そこで、従来の劣化状態調査の問題点と課題を析出し、以前の劣化状態調査票の電子化と再調査・分析を2001・2002年度に行った。常陸国土浦土屋家文書を事例に、新たな調査方法の解説とその調査における実際の問題を提示する。なお、本稿における劣化状態調査については主に近世文書、あるいは和紙を対象としたものに限った。

これまでの劣化調査は、1990年7月12日作成（同年10月13日改訂）の「史料劣化損傷調査記入用紙の記述マニュアル」（以下、マニュアルと略す）を元に、「史料状態調査記入用紙」というB5判の用紙を作成し、史料単位レベルでの劣化調査を実施した。記載事項は以下の通りである。

<p>I：劣化損傷の程度</p> <p>(1) 用紙の種類（和・洋紙・不明）</p> <p>(2) 史料の外見・劣化損傷の様子（箱入・合本・酸性紙封筒・露出）</p> <p>全体の状態（優・良・可・不可）</p> <p>A.虫損（全体・半分・一部・無）</p> <p>B.フケ（全体・半分・一部・色 ・無）</p> <p>C.汚損（全体・半分・一部・色 ・無）</p> <p>D.破損（全体・半分・一部・無）</p> <p>E.過去の環境による折れ等の影響（全体・隅々・端・無）</p> <p>F.綴じ・紙継ぎ・紙貼りの剥離（全体・半分・一部・無）</p> <p>G.過去の整理による影響</p> <p>(3) 過去の補修：無・有（綴紐・裏打・補修紙・他）</p> <p>変わった素材（テープ・クリップ・他）</p> <p>II：評価（要補修・現状維持・特殊な防護方法）</p> <p>III：今後の処置方法（部分補修・全体補修・年 月 日担当 ）</p>
--

常陸国土浦土屋家文書劣化状態調査は、史料単位レベルで行ない、それぞれの劣化状態を数値にて表した。調査対象は、4680点の内1900点、40%である。従来の調査では「優・良・可・不可」、「全体・半分・一部・無」などの4段階評価を使用してきた。ここでは電子化に向け、0～3までの数値で4段階で表した。図表4-1に記入例を示し、さまざまな劣化状態の割合を図表4-2にまとめた。以下、表の項目ごとに、内容と問題点・改善点を述べる。

「番号」「枝」史料整理番号。「用紙種類」和紙は「和」、洋紙は「洋」とした。図表4-3から、近世大名文書に一部の洋紙の存在が判明する。混在した酸性紙への対策の必要性を示している。

「全体の状態」 0点を「優」とし、以下1＝「良」、2＝「可」、3＝「不可」（以下、数字表記は同

じ)とした。3点は出納が支障がある状態を示す。判定の算出基準は、他の項目における点数の加算が4点以上になった場合、「全体の状態」は2点とし、それ以下については全て1点とした。他の項目で点数がつかなかったものについては0点となる。こよりや綴じ紐の欠損・破損によるものはその他の項目に関わらず2点とし、「評価」欄をa=要補修とした。また、ひとつの項目に3点以上ついた場合、他の項目が0点でも本項目は2点とする。このような加算方法によって、従来曖昧であった各項目と「全体の状態」との相関がとれるようにした。結果として、土屋家文書の場合、90%近くの史料が何らかの劣化状態であることがわかった。

「虫損」シバンムシ類などによる虫食い、鼠にかじられた劣化。虫糞跡は「汚損」とし、食痕のみに限定した。虫穴があればその多少に関わらず1点をつけ、現状を記録した。本紙周辺部位で欠損しそうな場合は3点を付けた。

「カビ」白カビ・黒カビ・紫色のカビ等の痕やフケ状(紙繊維の内部腐蝕)のもの。シミ跡がある場合、「カビ」と判断すべきか、「汚損」と判断すべきか迷う。フォクシングも含めて複合的な症状であり、厳密な区別は困難と判断した。よって、茶や黄色の水シミやフォクシングは「汚損」に分けた。劣化調査時の初めと終盤での項目選定のズレは、「カビ」「汚損」に多くでてしまった。

「汚損」汚損(水シミや埃など)・利用による劣化(手垢など)。但し、使用痕との見極めが困難であった。受入時の使用痕は早めに確認しておくことが求められる。

「破損」破れ・擦り切れなど。

「折れ」折れ皺のあるもの。冊子の表裏表紙の四隅の折れは、2箇所折りができているものは1点、それ以上については2点、甚だしい折れ目があるものについては3点とした。横帳などの元からの二つ折れには1点とした。状物の不自然な折れ皺は1点、折れにより亀裂になるものを3点とした。この場合、2点の形状の判断規準がむずかしい。

「剥離」貼紙付箋の剥離、綴じ紐の欠損など。保存措置の時点で。冊子の綴紐が欠失し、丁はずれになりそうなものは3点、欠失していても留まっていれば2点とした。継紙・貼紙がはずれていれば3点とした。半分剥離のものが2点にあたる。

「整理の影響」ラベル貼付による影響や鉛筆書など。受入時の大型の旧ラベルの無理な剥離や新規ラベルの貼付技術が悪く、糊皺や汚れが目立った。一箇所が1点、複数の場合、2点以上とした。

「補修」過去に施された仮綴・裏打ち・部分修復の記録とその影響を調査する。

「変わった素材」クリップ留め・インク書き込みなどの有無とその影響確認を行う。

「評価」評価は、状態記録者が次の保存処置ステップを必要とするかを判断して評価する欄である。図表4-1にa:「要補修」、b:「特殊な防護方法」、c:「現状維持」と示した。

「備考」各項目について何らかの劣化症例が認められ、評価と共に参照すべき内容を記した。例えば、水濡れによる板状のものや焼損等、数値に置き換えにくい情報を記入した。

土屋家文書の劣化の特徴は、虫損とカビの被害にある。そこで図表4-1は、劣化損傷度の高いランクを見るため、全体の状態3・虫損3・カビ3で集計した¹³⁾。このリストに含まれる史料は、状態が悪く再度検討すべき対象となる。劣化調査の次の分析は、評価で修復処置が必要とするものの集計リストを作成する。図表4-1は表を多角的に集計して具体的な保存対策のデータとして活用し、図表4-2は全体の劣化傾向を判断するのに用いる。このデータの全体状態・評価の比率と・主な劣化症例の傾向は、「史料群保存措置状況」データの劣化調査の欄に反映させる。今後、保存状態の理解のため、わかりやすい図表4-2を利用者にも提示することも考える必要がある。

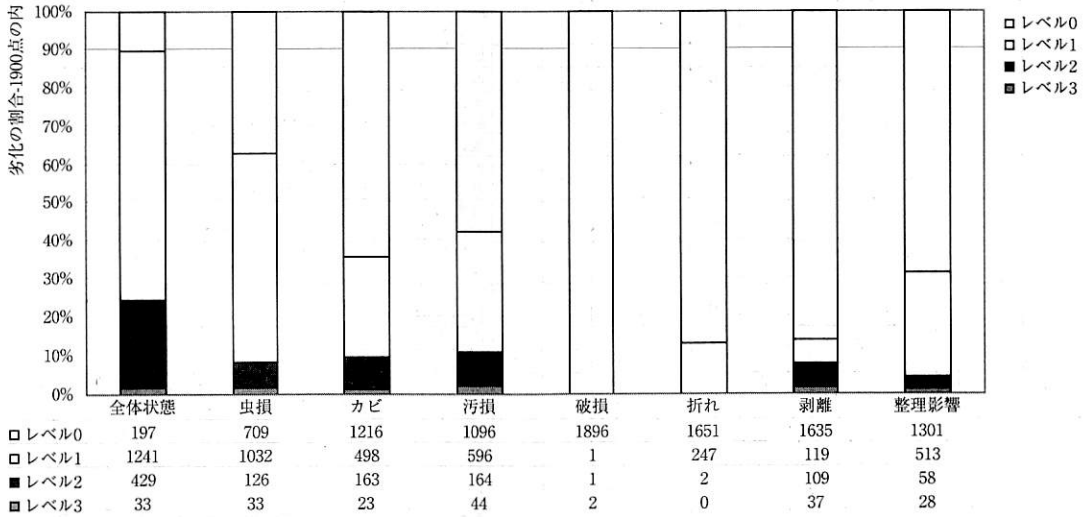
史料群ごとに劣化状態がかなり相違することを示したのが図表4-4、4-5である。越後国三島郡深沢村高頭家文書は、閲覧に支障があるレベル3が1割、下総国相馬郡藤代村飯田家文書は2割を超える。

アーカイブズ保存のための物理的コントロールに関する現状

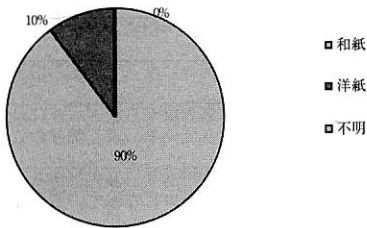
図表4-1 史料状態調査記入例-全体の状態3・虫損3・カビ3のレベル順（29D常陸国土浦土屋家文書）

番号	枝番	用紙種類	全体状態	虫損	カビ	汚損	破損	折れ	剥離	整理影響	評価	備考・コメント
322		和	3	3	3	0	0	0	2	0	a	縦じ部分のこよりが切れている、最初のページの方に茶色のカビあり、最後のページの方に紫色のカビあり
385		和	3	3	3	0	0	0	0	0	c	地に白カビ・黒カビなどあり、中性紙挟み込み
386		和	3	3	3	0	0	0	1	0	c	地に白カビ・黒カビなどあり
391		和	3	3	3	2	0	0	0	0	a	地に黒カビなどあり、カビの部分ポロポロになっている、最初のページの方便用痕による劣化
392		和	3	3	3	0	0	0	1	0	a	地に黒カビなどあり、カビの部分ポロポロになっている
308		和	3	3	2	3	0	0	0	0	a	裏表紙より上については汚損のためポロポロとなっており剥離の危険、全体的に茶色のカビあり
315		和	3	3	2	0	0	0	2	0	a	裏表紙より上については汚損虫損のため剥離の危険、全体的に茶色のカビあり、縦じ部分のこよりが切れそう
318		和	3	3	2	1	0	0	0	0	a	虫損による剥離の危険、全体に茶色のカビあり、表紙汚損あり
350		和	3	3	2	0	0	0	0	0	a	虫損による剥離の危険、全体に茶色のカビあり、裏表紙剥離の危険あり
1219		和	3	3	2	0	0	0	0	0	c	茶色のカビあり
1220		和	3	3	2	0	0	0	0	0	c	茶色のカビあり
309		和	3	3	1	0	0	0	2	0	a	縦じ部分のこよりが切れそう、虫損による剥離の危険
310		和	3	3	1	0	0	0	2	0	a	縦じ部分のこよりが切れそう、虫損による剥離の危険
311		和	3	3	1	1	0	0	2	0	a	縦じ部分のこよりが切れそう、虫損による剥離の危険
393		和	3	3	0	0	0	0	0	0	c	虫損による表紙剥離の危険
599		和	3	1	3	3	0	0	0	1	a	水に浸ったためか板状になっている、全体に黒カビ・シミあり、一部ポロポロになっている、旧ラベル剥し痕あり
677		和	3	1	3	3	0	0	0	0	a	表紙から数ページにかけて紫色のカビあり、天全体にシミあり、一部ポロポロになっている、全体に茶色のカビあり
1077	6	和	3	1	2	2	0	0	3	0	a	黒カビ・茶色のカビあり、汚損（シミ）あり、貼紙剥離
1331	1	和	3	1	2	2	0	0	3	1	a	茶色・紫色等のカビあり、汚損あり（シミ）、縦紙剥離、ラベル貼付による糊の汚れ
	2	和	3	1	2	2	0	0	3	1	a	茶色・紫色等のカビあり、汚損あり（シミ）、縦紙剥離、ラベル貼付による糊の汚れ
600		和	3	1	1	3	0	0	0	1	a	全体にシミあり、ポロポロになっている、旧ラベル剥し痕あり
681		和	3	1	1	3	0	0	1	0	a	中に茶色のカビあり、裏表紙から数ページにかけて天にシミあり、ポロポロになっている、縦じ部分のこよりが切れている
682		和	3	1	1	3	0	0	3	0	a	裏表紙見返しに紫色のカビあり、裏表紙から数ページにかけて天にシミあり、ポロポロになっている、縦じ部分のこよりが切れている
1051	1	和	3	1	1	1	0	0	3	0	a	茶色のカビあり、汚損（汚れ）、貼紙剥離、1051を収めた袋虫損・茶色のカビ・汚損（シミ）あり
678		和	3	1	0	3	0	0	0	0	a	中にシミあり、裏表紙から数ページにかけて天にシミあり、ポロポロになっている
1167		和	3	1	0	2	3	0	3	1	a	汚損あり（シミ）、フケ状になっている、縦紙剥離、ラベルの糊が裏にしみている
1077	3	和	3	0	1	0	0	0	3	0	a	黒カビあり、貼紙剥離
1077	5	和	3	0	1	2	0	0	3	1	a	黒カビ・茶色のカビあり、汚損（シミ）あり、貼紙剥離、ラベル貼付による皺
1158		和	3	0	1	0	0	0	3	1	a	茶色のカビあり、縦紙・貼紙剥離、ラベル貼付による皺
1163		和	3	0	1	0	3	0	3	0	a	茶色のカビあり、フケ状になっている、縦紙剥離
1077	4	和	3	0	0	1	0	0	3	0	a	汚損（シミ）あり、貼紙剥離
2049		和	3	0	0	0	0	0	3	1	a	縦紙剥離、ラベル貼付による皺
369		和	2	3	2	0	0	0	0	0	c	閲覧可能か、虫損による裏表紙剥離の危険、地に紫色のカビあり
389		和	2	3	2	0	0	0	0	0	c	最初のページの方紫色のカビ
380		和	2	3	1	1	0	0	0	0	c	最初のページの方便用痕による劣化・茶色のカビあり
382		和	2	3	1	2	0	0	1	0	c	最初のページの方便用痕による劣化、全体に茶色のカビあり
384		和	2	3	1	0	0	0	1	0	c	閲覧可能か、表紙などに紫色のカビあり
388		和	2	3	1	0	0	0	1	0	c	虫損による剥離の危険、最後のページの方紫色のカビあり
667		和	2	3	1	1	0	0	0	0	c	端にシミあり、表紙汚損（汚れ）、全体に茶色のカビあり
1102		和	2	3	1	0	0	0	0	1	c	ラベル貼付による皺、包紙虫損・茶色のカビ・ラベル貼付による皺あり、包紙剥離
366		和	2	3	0	0	0	0	0	0	c	虫損による裏表紙剥離の危険
367		和	2	3	0	0	0	0	0	0	c	虫損による表紙・裏表紙欠損
368		和	2	3	0	0	0	0	0	0	c	閲覧可能か、中性紙挟み込み（付箋として）

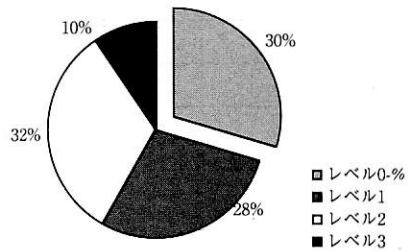
図表4-2 土屋家文書のさまざまな劣化状態の割合



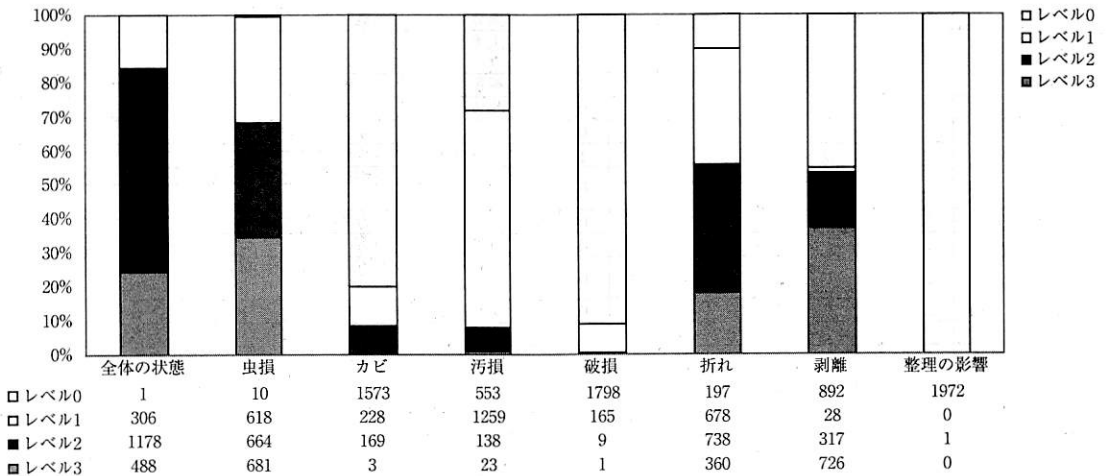
図表4-3 土屋家文書の和紙と洋紙の割合



図表4-4 高頭家文書の劣化状態



図表4-5 藤代村飯田家文書のさまざまな劣化状態の割合



IV-2 史料修復記録

先に述べた「史料状態調査」は、その劣化損傷の現状確認とその記録、さらに次に何をすべきかの評価、改善方法まで記入する。「史料状態記録」をもとに、今後の処置方法の選定にはいり、修復の緊急性や優先順位を判断する。

近世史料の修復要否の判定は、次のような顕著な劣化要因が見られる場合である。7種類をあげておく。①虫損<シバンムシ類による喰害にあって脆く崩れたりしたもの>。②湿害<冠水や湿気によって密着して開けられない板状のもの>。③フケ<カビ類によって柔らに脆くなり変色し、剥落をおこしたもの>。④破損<破れたり切れたりしているもの>。⑤汚損<泥・塵や水濡れにより黒・茶褐色に汚染し、その影響が懸念されるもの>。⑥剥離<冊子の綴や巻子の表装崩れと紙継ぎが離れバラバラになっているもの>。⑦酸性化<染料や明礬により脆くポロポロになったもの>。多くの場合、一種類ではなく数種類の被害が複合して一層脆くなっている。

これらの史料の修復後は、一頁ごとにめくれようにし、紙の厚みも変わらずに原形を生かして閲覧可能にすることを旨とする。具体的な修復方法は、必要最小限の部分補修（虫損直し、繕い）に止めることとし、閲覧に際しての反復利用に耐えられる場合は総裏打ちをせず、数百にもおよぶピンポイント状の虫穴の繕いを見送る場合もある。虫損の集中箇所は、周辺部分や全体とのバランスが崩れないよう考慮して修復にあたる。そのため、現在、高度な技術と技法および慎重かつ精密な作業が要求されることから、専門家に委託している。よって、ここでの記録は、外部の修復専門家が作成する実際の修復記録と依頼側の修復仕様書の2種類となる。

これまでの修復事例における依頼側からの仕様書は、所蔵側としての修復後の望ましい状態と修復方針を呈示した内容である。簿冊であれば冊子の密着部分への湿りの与え方と剥離作業、本紙欠損部の補修、装丁綴直しなど、技術や材料、記録方法について両方で協議した上で、修復仕様書と見積もりを取り、選定の手続きとなる。修復専門家が決定後、詳細な打ち合わせを行う。その内容は、冊子解体に際して綴部分に書込情報が残されている場合の処置、綴糸の処置と結び方の記録、冊子小口の墨書を残す処置、正確な現状記録のための写真撮影と記録の作成、打ち合わせにない問題についての対応などである。疑問点があった場合には両者が協議の上、措置を決定することとなる。修復作業において、解体前は1冊であったが、本来は2冊で後に合冊されていたことが判明した例があり、他にも修復によって史料学的な貴重な情報が得られたこともあった。

史料修復記録の記載内容は、次の8項目になり、①修復工程説明書、②技術・材料、③実際の作業内容、④原史料の物理的状態（修復前後の寸法・厚み・重さ、紙質、枚数、綴の形態等）、⑤現状記録（工程記録、写真撮影・修復前後・劣化原因部位、綴穴位置寸法・綴の形態スケッチ等）⑥問題箇所の記録、⑦依頼側への伝達事項等、⑧今後の管理にあたっての留意事項、である。

外部作成の修復記録は、基準があるわけではない。そのため、依頼側が一定の記載事項を提示することが必要である。修復専門家が変わるたび、異なる内容の修復記録が蓄積されることはあってはならない。なお、修復記録は、収蔵機関において継続的に保存管理し、原史料に対応した詳細な記録としての情報管理が必要である。これまで、電子情報化された史料の物理的情報の管理のため、環境整備が欠かせないことを述べてきた。例えば、スケッチなどの手書きによる修復記録は、紙媒体で受け取ることになる。そのままにあると、情報が分離する可能性は高い。アーカイブズの物理的コントロール全体の電子情報化を推し進めていく場合は、この修復記録も電子化する方法を選定することが求められる。例えば、汎用性のあるソフトによるPDF化も検討の遡上に挙げられる。

IV-3 史料紙質調査

先に述べたように、アーカイブズの物理的コントロールの流れは、全体から個へ、すなわち史料群→史料群の中のまとまり→史料単位の媒体という順序をたどる。アイテム単位として最も一般的な媒体である紙は、修復記録と共に最終段階の物理的コントロールの対象である。

史料単位の調査には、記録媒体(記録素材・記録定着媒体・記録形状)調査、史料適正材料テスト調査¹⁴⁾が含まれるが、ここでは紙など支持体である記録素材を主として紹介する。

これまでの紙質調査は、第一に、その原料、抄紙・色・用途・産地等により様々な名称は何であるのか、また、それらの紙は、文書の発給者や使用者の身分や格式によってどのような使い分けがなされているかを調査し、史料の発生と機能を解明する重要な手掛かりとなるものとして調査されてきた。第二には、紙の材質は何か、どのように劣化・損傷しているのか、どのくらい劣化・損傷の程度はどうか、などの科学的な調査・分析により、劣化損傷の原因を究明して修復修復・強化処置に役立てることを目的としている。

近世以降の史料は、残存する量が膨大なこともあって、古代・中世史料に比べて史料群中の一点ごとの紙質調査が行われることは希であるが、近年、収蔵史料の紙質調査を目的とした利用が増えている。陸奥国弘前津軽家文書にある徳川幕府発給の朱印状・判物は顕著な例である。調査者は、古文書学、史料学や保存科学の研究者である。こうした収蔵史料の紙質調査分析によりもたらされた成果は、当館における「史料認識論」と「史料管理論」の二つの研究領域からも注目すべき情報である。

しかしながら、その紙質調査の分析結果についての共有化できる情報環境は整備されているとは言い難く、その情報を公開するための一層の環境整備に努めることが求められる。

ここでは、上記の環境を整える上で必要とされる紙質調査データの利用について、一つの試みを紹介しようとするものである。

アーカイブズを対象として紙質調査を行う場合、詳細な科学的分析データを採る目的以外、基本として非破壊で行わなければならない。現在の紙に関する非破壊調査方法には、肉眼観察、顕微鏡観察(光学顕微鏡・CCDカメラデジタル画像)がある。

試薬を用いた化学的分析方法(JIS P8120の「紙の繊維組成試験方法」)は、木材パルプ、非木材パルプの同定に用いられる。この方法の内、C染色液による呈色反応は、採取試料を採取可能であれば楮・三桮・雁などの原料を特定することが可能である。しかし、紙繊維を10本ほど採取しなければならないため、破壊的調査方法に位置づけられる。

最近における非破壊的紙質調査の報告¹⁵⁾には、増田勝彦「肉眼観察を中心とした和紙の特徴の記述」(1993年)、園田直子「素材としての和紙に関する研究」(1994年)、富田正弘「古文書料紙原本にみる材質の地域的特質・時代的変遷に関する基礎的研究」(1995年)、稲葉政満・小宮英俊「パークス和紙コレクションの紙質調査」(1997年)、拙稿「史料に用いられた紙資料群の科学的類別に関する研究」(1999年)、「版本・錦絵・古文書に用いられた紙の材質に関する基礎研究」¹⁶⁾(平成14~16年)がある。

増田氏は、肉眼観察の方法について墨跡観察による識別方法をまとめている。墨の滲みやカスレによる紙表面の風合いを観察し、紙の原料、滲み止めの有無等を判断した。

園田氏は、非破壊的方法として、紙の特徴の記録に画像瞬間校正紙使用の可能性を探り、填料や特殊な表面加工のない和紙は、原寸大での正確な記録が可能であることを実証した。

富田氏代表の古文書原本を用いた料紙調査は、文献調査、分析調査により、その使用目的の相関性の解明に努めた。さらに、紙の特質を物理的な計測・繊維の光学的観察・化学分析といった客観的科学方法のデータの作成を目的とした。

海外の和紙コレクションの紙質調査を行ったのは、稲葉・小宮氏である。英国ヴィクトリア&アルバ

ート美術館所蔵のパークス和紙コレクションについて調査した。この調査は、非破壊での紙質調査方法の全てを用いられて実施した。

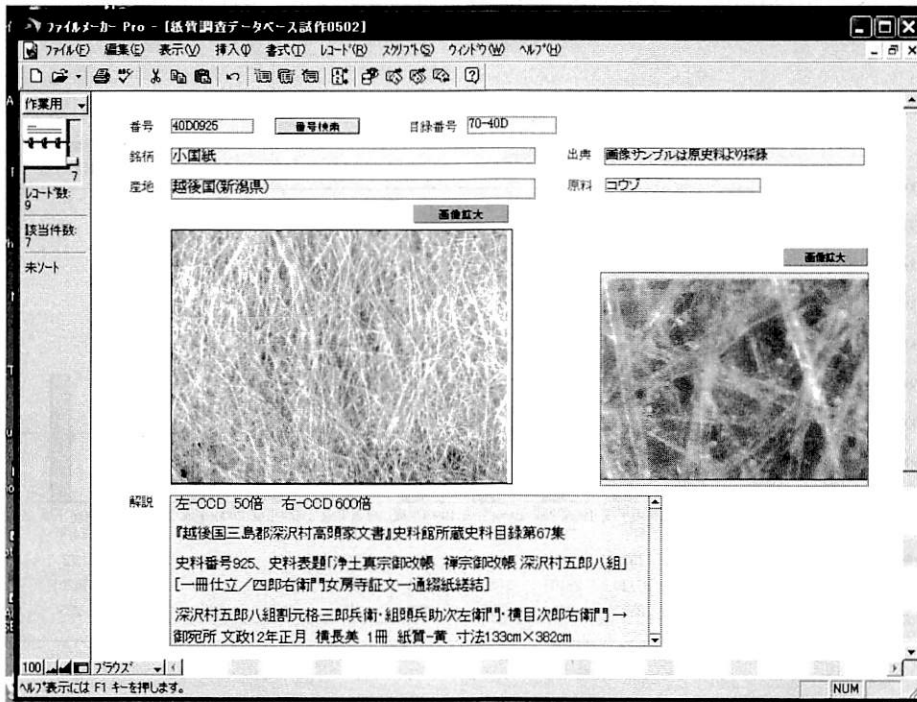
青木は、古文書、版本、錦絵等を対象として、その材質、特性を科学的類別することを目的にした研究を行っている。史料群を対象として、紙特性を明らかにするための基礎情報を蓄積することを意図した、紙質測定技術の基礎的研究である。

本稿の調査方法として紹介するのは、CCD（電荷結合素子）カメラによる観察法である。接眼部にカメラを装着してコンピューターに接続し、画面上でピントを合わせて観察する。画像は専用ソフトWinRoofを使って保存できる。光学顕微鏡より焦点深度が深く、立体的な構造を観察するのに適している。図表4-6にCCDカメラを用いた紙質画像を取り入れた「収蔵アーカイブズ紙質データベース試作版」（データベースソフトFileMaker Pro6）を示した。拡大画像はCCDカメラによるもので、倍率は繊維の方向性や長さが判断しやすい50倍と繊維形状がわかる600倍を示した。事例の越後国三島郡深沢村高頭家文書は、文書の料紙の種類について入用帳等に記載があるため、紙名と使用帳簿を特定することができる。このように紙質の特徴を画像で記録し、画像以外の紙質調査データを含めたデータベースの構築が必要と考え、試作版を作成した。

アーカイブズなどの保存利用機関での簡易な調査方法についての概要を次にまとめる。

調査では、肉眼で紙表面の観察を行い、感触から得られる繊維の形状や紙の厚さ、色、風合いを総合的に判断し、紙の原料を推測する。紙質測定の範囲は、寸法、重量、厚さの計測、簀の目の本数、糸目の間隔、受け棧の本数、漉き簀の素材（竹簀・萱簀・紗）、刷毛跡の観察、地合、繊維の形状等がある。簀の目などはライトテーブルで透過光を当てるとよく観察できる。画像記録には、デジタルカメラによる接写でも鮮明な画像が撮影することができる。その場合、スケールを撮し込み、倍率を記録することが必要である。これらの方法であれば、史料の負担を軽減できる。

図表4-6 「収蔵アーカイブズ紙質データベース試作版」



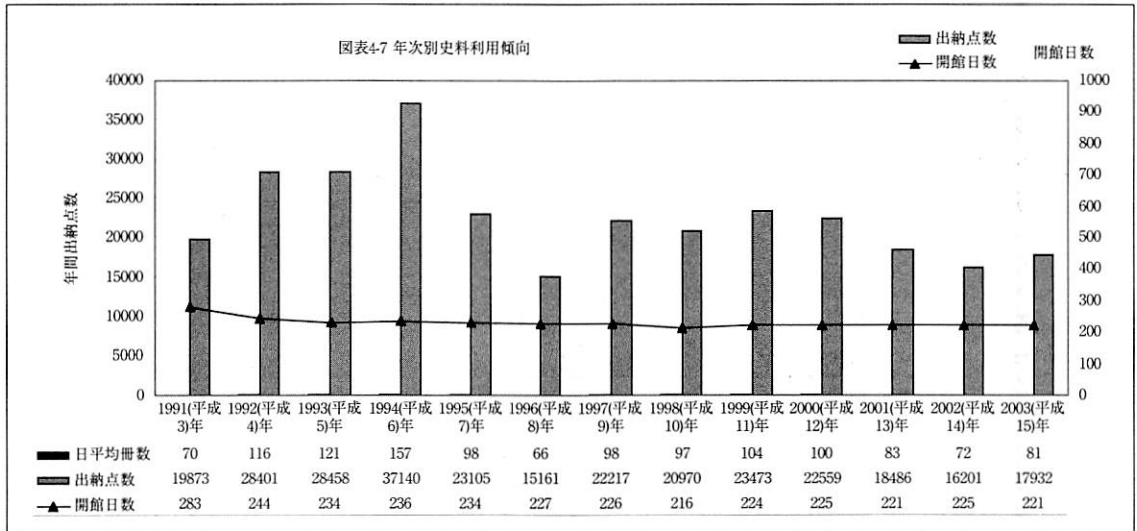
IV-4 利用状況調査

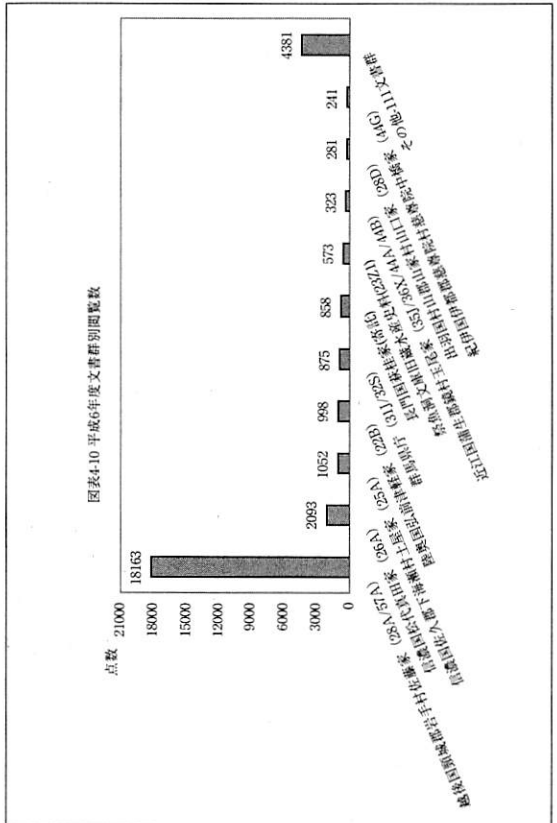
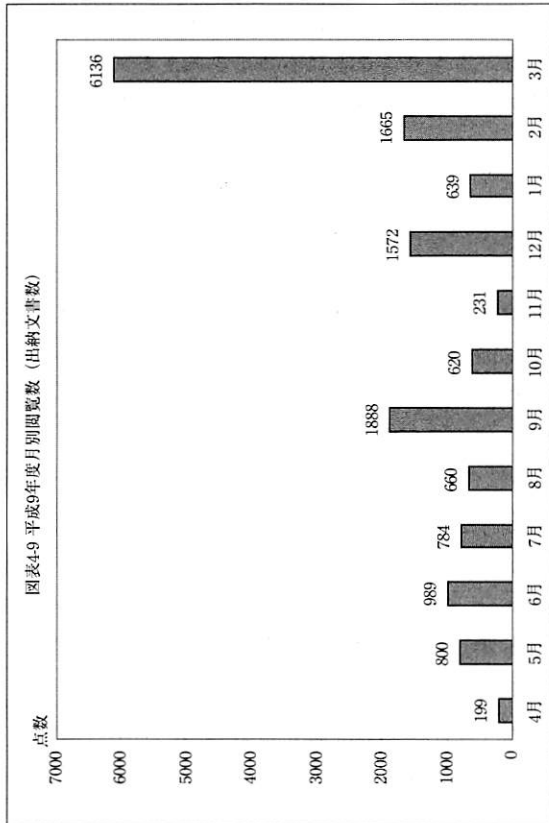
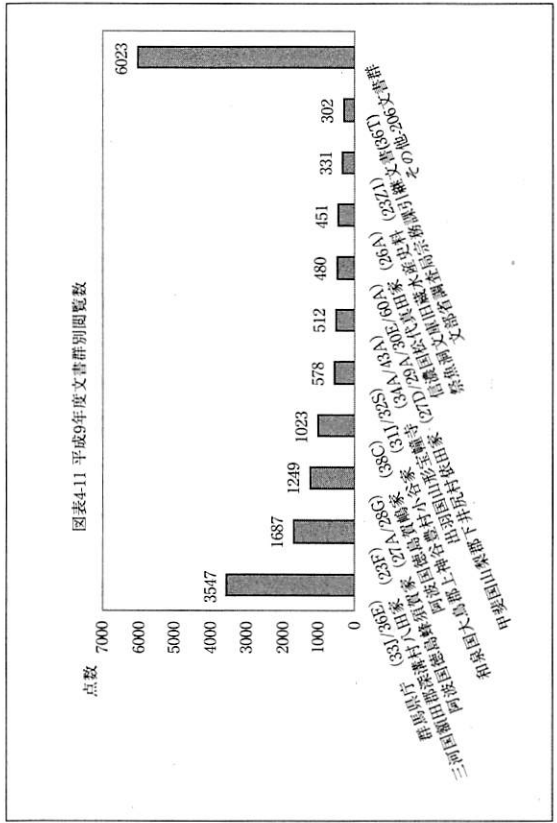
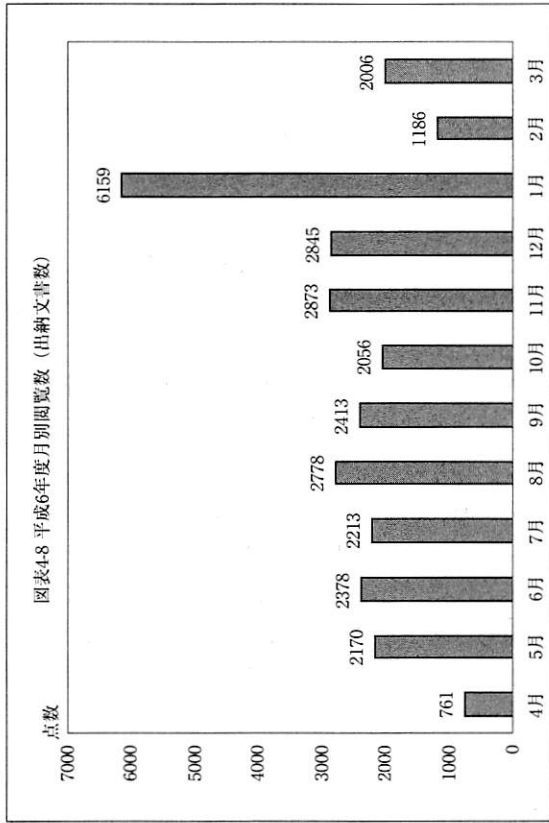
史料を長期にわたって保存する作業に終わりはない。なぜなら、史料はいつまでも収蔵庫の棚におかれたまま、保存容器の小環境の中で眠り続けていることはできないからだ。利用者は、一点の史料について、一時間、一日、または数日かけて閲覧する。史料をモノとしてみれば、利用されれば劣化損傷することになる。利用による負荷の状態を正確に把握するには、史料の利用頻度を把握することが重要である。それは、史料群ごとの保存措置優先順位の選定の根拠のデータとなる。

収蔵史料群の利用頻度については、既に1979(昭和54)年に、1976~78年度3ヵ年間の史料群ごとの利用状況の調査を実施し、統計データを作成した。その結果、自明のことではあるが、既に目録が公刊されている史料群の利用頻度が高いことが判明した。

1996年3月、史料館で収蔵している史料群394件、寄託史料19件の原史料総413件のすべてについての史料群情報が『総覧』に収録刊行された。史料館の収蔵史料の情報が利用者に伝えられ、利用条件は格段に向上した。反面、未だに仮整理段階の史料群もおしなべて一律の公開条件になったため、整備途上の史料群に対する利用が増加する事態に保存措置が追いつかない状態となり、利用傾向の把握が急務となった。歴史資料閲覧室には、年間1,000人以上が利用し、図表4-7に示したように出納史料点数は20,000~30,000点以上におよぶ。日平均100点以上が利用されている。そこで、2003年に史料群ごとの利用状況の調査を実施することとした。調査対象年は、『総覧』刊行前の1994(平成6)年、その後の1997(平成9)年とした。図表4-8-9は、月別史料利用点数の傾向を示す¹⁷⁾。閲覧出納数の多い冬期¹⁸⁾は、収蔵庫と閲覧室の温湿度環境変化が最も著しく、史料へのストレスを高めるため、早期の対応が求められる。

図表4-10と4-11を比較すると、『総覧』刊行後は「その他」に206史料群が利用されていることで、特定史料群集中というよりは分散傾向にあることが読み取れる。なお、20年前の傾向と同様、ベスト10の史料群の内9件が既刊目録であり、検索手段が整備されると利用傾向が高まることを示している。このことから、今後の保存措置優先順位は、史料仮目録情報が電子化した史料群を優先するという根拠が得られた。





V. おわりに

アーカイブズ保存のための物理的コントロールのシステムは、史料の情報価値を、物理的原形をできる限り維持し、永続的に歴史的文化的資源として広く利用可能なよう、適切な保存・公開できるようにすることを目的とする。そして、モノとしてのアーカイブズ自身を含む史料群の物理的秩序・原形を保存し、永続的・耐久的な保存を保証することが、アーカイブズ学における物理的コントロール論の研究領域である。その意味で、単なる技術論としてあるのではなく、史料学の科学的分析を裏付けるもっとも基礎的な情報を、提供するという一研究領域として、アーカイブズ学的保存論として位置づけられる分野と捉えられる。

これまでの事例で示したように、アーカイブズの物理的コントロールとは、史料群全体の現形を情報源とする組織の機能・管理に関する情報を保存するため、物理的階層を基幹とした合理的方法論を示すことである。最終的には、マテリアルライフ (物質としての保存期間・寿命) を考究し、情報そのものの形はないが、情報を記録している媒体は形を持ったモノであり、そして情報を記録したモノ自体が持っている情報を、目視のみではわからないモノ情報から、わかる情報へ変換する科学的分野でもある。

本稿では、アーカイブズの物理的階層を基幹として、その段階ごとに保存情報を資源化していく考え方と具体例を述べてきた。最後にこの中から、課題と展望を引き出しておきたい。見てきたとおり「史料館保存活動」以降の14年は、保存面の充実をみることができたのではなかろうか。ただ、情報化の動きに照応させると、解決すべき課題はかえって増えている。

課題の第1は、アーカイブズの保存情報の活用のための電子化システム内でのリンクについてである。物理的階層ごとに一定のシステムで保存情報を管理しているが、今後どのように全体の情報管理システムへ組みかえるべきか、という点が不十分である。収蔵史料全体の情報提供のための「総覧」に史料群の状態を取り組み、史料群目録データベースとの関連づけを行い、史料群、史料一点単位の史料群保存状態、劣化調査、修復記録を一元的に管理できるようにリンクさせることは有効である。そのためには、史料群、史料単位それぞれの保存状態調査データの表現の標準化と論理式によるデータの評価¹⁹⁾が必要である。

第2に、保存情報を利用に供する手段のシステム化である。現在公開されている所蔵史料のデータベース化によって、史料群からさらに個々の史料まで史料情報の検索ができるようになるのみならず、史料群の階層構造に沿って検索するシステムも確立されるであろう。史料情報の一環として、史料の保存状態、複製化による代替化の有無、保存措置の状態、修復記録、記録媒体記録、閲覧・複写・貸出など利用の履歴に関する情報を管理していくシステムが望ましい。一般利用者へのそれら保存状態公開のためのQRコードによるバーコードリーダー (携帯電話付属リーダー等) の導入等についても検討が必要である。これらのシステムをどのように構築していくか、改めて今後の課題となる。

第3は、これらのシステムを維持し、発展させる体制についての課題である。本稿の図表データは、既に老朽化しているデータが含まれる。保存措置の進行と保存条件改善の実施状況は、日々更新されていない。これを具体的に維持し継続する側面に不足するところがある。

1996年、第13回ICA (国際文書館評議会) 世界大会プレセミナーでのヘレン・フォード氏は、「アーカイブズのプリザベーションにおける現代技術の利用」と題し、電子化した保存情報の活用事例を報告した。日本のアーカイブズの保存活用と世界的水準を見据え、アーカイブズ保存のための物理的コントロールのための理論と技術的課題を解決し、国際的なアーカイブズ保存の新たな物理的コントロールシステム構築への基盤整備を図ることが課題となってくる。史料保存の分野でも、国際的な論議への積極的な関与が求められる。

注

- 1) 安藤正人（『記録史科学と現代－アーカイブズの科学をめざして－』吉川弘文館、1998年）のいうところの分析的整理の中心となる記録史料群の構造分析における記録階層と物理的階層は異なる。物理的階層は、アーカイブズの現状を示すものであり、物理的コントロールの対象状態をいう。なお、史料調査段階での物理的階層をもとにした保存管理については、青木（廣瀬）睦「初期整理段階の史料保存手当」（『牛久市小坂・斎藤家文書概要調査報告書』、牛久市史編さん委員会近世史部会編、1993年）を参照されたい。
- 2) 史料群に含まれている単位の内、袋入り数10点、紙縫で一束になった状態や挟み型のフォルダーにまとめられた書類類などを「マトマリ」とした。
- 3) 前掲注1
- 4) 「物理的コントロールphysical control」という用語のphysical controlは、安藤氏が記録史料の保存・整理の目的を達成するための作業について、「分析的な整理管理作業intellectual control」「物的な保存管理作業physical control」と対して説明する際に用いている（『記録史料の保存・整理方法について』『記録史料を守るために』南予古文書の会、1992年）。また、青山氏は、「資料コントロールphysical control」として用いている。
- 5) 前掲注1、青山英幸「記録から記録史料へ－アーカイバル・コントロール論序説－」（岩田書院、2002年）
- 6) 日本においてアーカイブズに対する劣化調査を体系的な調査手法によって実施されたのは、安藤正人・増田勝彦・坂本勇・山田哲好「劣化損傷した歴史資料の大量修復技術の基礎的研究」（『（財）福武学術文化振興財団平成2年度年報』1991年、『同3年度年報』1992年）が初めである。この研究において坂本勇氏が作成した調査要綱を当収蔵史料用に改訂して作成したのがIV-1で示した「史料状態調査記入用紙」である。1990年には「史料館保存活動」でも述べているように保存措置作業の段階に調査記録を作成し始めている。その後、特定の史料群の中を選定して劣化調査を行った事例に、金山正子「大阪府所蔵資料の劣化状態調査の提案－『大阪府広報』調査結果を参考として－」（『大阪あーかいぶず特集号』No.3、1992年）、新井浩文「行政文書の劣化状態調査について－起案用紙の劣化を中心に－」（『（埼玉県立）文書館紀要』第9号、1996年）、稲葉正満「戦前期二国間条約書の劣化状態調査」（外務省外交史料館委託調査報告、『外交史料館報』第13号、1999年）、稲葉正満「戦前期多数国間条約書の劣化状態調査」（外務省外交史料館委託調査報告、『外交史料館報』第14号、2000年）がある。大湾ゆかり「琉球政府文書の保存状態調査について」（『沖縄県公文書館研究紀要』創刊号、1998年）は、木部徹氏による（有）資料保存器材「資料保存のためのランダム・サンプリング法」（http://www.hozon.co.jp/ranom_sampling.htm 2005/01/07）を採用した調査を実施し、その調査結果をもとに、修復レベルを段階分けし、修復処置予測時間の基準を算出した事例である。収蔵史料全体の保存計画を立案するために実施された例が国立公文書館の事例である。調査は、（財）元興寺文化財研究所に委託されて実施された〔国立公文書館公文書課（調査報告作成：（財）元興寺文化財研究所）「国立公文書館所蔵公文書等保存状況等調査について」（『アーカイブズ』4、2000年）、（財）元興寺文化財研究所「国立公文書館所蔵公文書等保存状況等調査－第二次調査報告書－」（『アーカイブズ』6、2001年）、国立公文書館業務課（マニュアル作成：（財）元興寺文化財研究所）「国立公文書館所蔵資料保存対策マニュアルについて」「保存対策マニュアル①時代別劣化症状の特徴と保存対策」（『アーカイブズ』9、2002年）、「保存対策マニュアル②支持体別劣化症状の特徴と保存対策」（『アーカイブズ』10、2002年）、「保存対策マニュアル③記録素材別劣化症状の特徴と保存対策」（『アーカイブズ』11、2003年）〕。保存計画と状態調査を簡潔に整理した金山正子「資料の保存計画」（第8章第3節、『アーカイブ事典』大阪大学出版会、2003年）、金山正子「紙を保存する－保存プログラムの策定」（『全国歴史資料保存利用機関連絡協議会会報』第60号、2002年）がある。なお、欧米の事例については、木部徹「近現代公文書資料群への予防的な保存手当て」（『アーカイブズ』10、2002年）、木部徹翻訳「文書館の紙資料保存－理論と実践－」（『文書管理通信』No.28、1996年、Alan Calmes, Ralph Schoefer, Keith R.Eberhardt, "Theory and Practice of Paper Preservation for Archives", Restaurator 9-3, 1988）が参考になる。
- 7) 大友一雄・五島敏芳「文書館活動と情報資源化の構想－古文書整理からの展開－」（『史料館研究紀要』第30号、1999年）
- 8) 東京都都市計画局調査・報告（2002年12月19日公表）第5回地域危険度測定調査における品川区豊町1丁目地区は、地震に対して「ABA火災に注意すべき町」という危険度の特性が示されている。また、品川区

は、この地区の第一次避難場所として当館を指定している。

- 9) 2003年12月の調査データであり、東京学芸大学教育学部自然科学系文化財科学研究室二宮修治氏の研究協力による。
 - 10) 青木睦・稲葉政満・高瀬亜津子「史料収蔵環境に対する保存箱の効果」(『史料館研究紀要』第30号、1999年)
 - 11) 青木睦・木川りか・山野勝次「記録史料保存のための生物被害対策と総合的害虫管理(Integrated Pest Management, IPM)」(『史料館研究紀要』第34号、2003年)
 - 12) 2003年3月段階のデータであるため、現在の状況と異なる場合がある。表の取り扱いに注意され、サンプルとして参照されたい。
 - 13) この図表で、劣化損傷度が高いが、次の保存処置の評価が「C」の場合は、カビの加害によるものである。処置について現在実施しないため、現状維持と判断している。
 - 14) 史料一点から得られるさまざまな情報を多角的に奥深く探求する場合、記録媒体(記録素材・記録定着媒体・記録形状)調査は重要である。今回は紹介していないが、墨などの分析も実施している。また、近現代史料に関して、前掲注6の国立公文書館の調査結果や平野正裕「近代文書整理法序説-文書の「成立様式」と「集積文書」について」(『横浜開港資料館紀要』第12号、1994年)を参考に、今後調査方法を確立させていきたい。
- 史料に対して安全かつ適正であるかについては、保存包材・材料の「史料適正材料テスト調査」を行っている。本来、史料に対して何を使用しているかの情報を残すためには、この調査データも含めるべきであるが、公開について検討中である。調査方法は、写真活性度試験で、元東京都写真美術館荒井宏子氏の協力を得た。調査方法については、荒井宏子「写真真画の長期的保存に対する現用包装材料の適否に関する試験報告」(『東京都写真美術館紀要』No.1、1998年)に詳しい。写真活性度試験の海外での検査状況は、小林睦人・木部徹(資料保存器材)「PAT(Photographic Activity Test=写真活性度試験)とは」(<http://www.hozon.co.jp/conservation/pat.htm> 2005/01/07)を参照されたい。
- 15) 増田勝彦「肉眼観察を中心とした和紙の特徴の記述」(『和紙文化研究』1、1993年)、岡田直子「素材としての和紙に関する基礎的研究」(『国立歴史博物館研究報告』57、1994年)、研究代表富田正弘「古文書料紙原本にみる材質の地域的特質・時代的変遷に関する基礎的研究」(『平成6年度科学研究費補助金 研究報告書』、1995年)、稲葉政満・小宮英俊「パークスと紙コレクションの紙質調査」(『東京芸術大学美術学部紀要』第32号、1997年) 研究代表青木睦「史料に用いられた紙資料群の科学的類別に関する研究」(『文部省科学研究補助金 研究成果報告書』、1999年)、その他参考文献、久米康生『和紙文化辞典』(わがみ堂、1995)・『和紙文化誌』(毎日コミュニケーションズ、1990年)、株式会社竹尾洋紙店企画室編『手漉和紙』(株式会社竹尾洋紙店、1969年)、毎日新聞社『手漉和紙』(毎日新聞社、1975年)、東京文化財研究所光学研究班『光学的方法による古美術品の研究 増補版』(吉川弘文館、1984年)、小宮英俊「紙の素顔-顕微鏡で見た紙-」(『百万塔』73、1989年)、小宮英俊「紙の鑑定について-繊維分析を主とした試験方法-」(『百万塔』73、1989年)、京都造形芸術大学編『文化財のための保存科学入門』(角川書店、2002年)、山本信吉・宍倉佐敏編『高野山正智院伝来資料による中世和紙の調査研究』(特殊製紙株式会社、2004年)、宍倉佐敏「三椏の研究」(『和紙文化研究』3、1995年)、宍倉佐敏「楮の研究」(『和紙文化研究』5、1997年)、「JIS P8120紙の繊維組成試験方法」(ニュー・サイエンス社、1994年)。
 - 16) 本科学研究には、当館元非常勤職員山崎圭子が研究補助にあたり、「収蔵アーカイブズ紙質調査データベース」作成の作業に協力した。記して謝意を表しておきたい。
 - 17) 史料1点あたりの利用頻度は、平成9年の場合、「群馬県庁文書」551件中、2回以上が96%、一年で11回も利用されている。また、2位の「三河国額田郡深溝村八田家文書」は、531件中、2回以上が99%、最高5回の利用である。閲覧票の集計により、閲覧調査・撮影・点検などによる、頻繁な利用実態が明らかとなった。今回の調査は、特定の年次をサンプリング的に調査した結果であるが、今後は正確に史料の利用頻度を保存履歴として記録化し、集計を迅速に行う方法としてのPDF化等を検討していきたい。
 - 18) 平成9年の場合、暖房稼働期の12月から3月の年間利用点数は、年間の45%と集中していることがわかった。
 - 19) 木部徹翻訳「文書館の紙資料保存-理論と実践-」(『文書管理通信』No.28、1996年、Alan Calmes, Ralph Schoefer, Keith R.Eberhardt, "Theory and Practice of Paper Preservation for Archives", Restaurator 9-3, 1988)